

鳥取県がん検診実績報告書

平成20年 3 月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

市町村の広域合併により検診体制等が見直されたことで、平成17年度鳥取県各がん検診実績は、受診者数、受診率ともに大幅に減少しましたが、全国平均より高く、平成18年度実績においても前年度とほぼ同様な結果でした。

しかし、国の「がん対策基本計画」の中で、今後10年間で受診率50%、75歳までの死亡率20%減少に向けて、どのような施策をとっていくかが大きな課題となっております。

がん検診を推進するに当たっては、市町村の検診体制の充実、要精検者に対し精検受診の大切さを啓発すること、更に、保健師の受診勧奨が極めて重要であります。それ以前の問題として、基礎データとなる対象者の把握方法が統一されていないことがあります。

国においては、対象者の取扱いの考え方、算出方式が示されましたが、本県の現状を踏まえながら、国が示す算出方式を導入するかどうか、今後更に検討していかなければなりません。

鳥取県健康対策協議会においても、検診の質の向上や精度管理向上に努めていきたいと存じますので、行政、医師会、鳥取大学医学部の更なるご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。

平成20年 3 月

鳥取県健康対策協議会

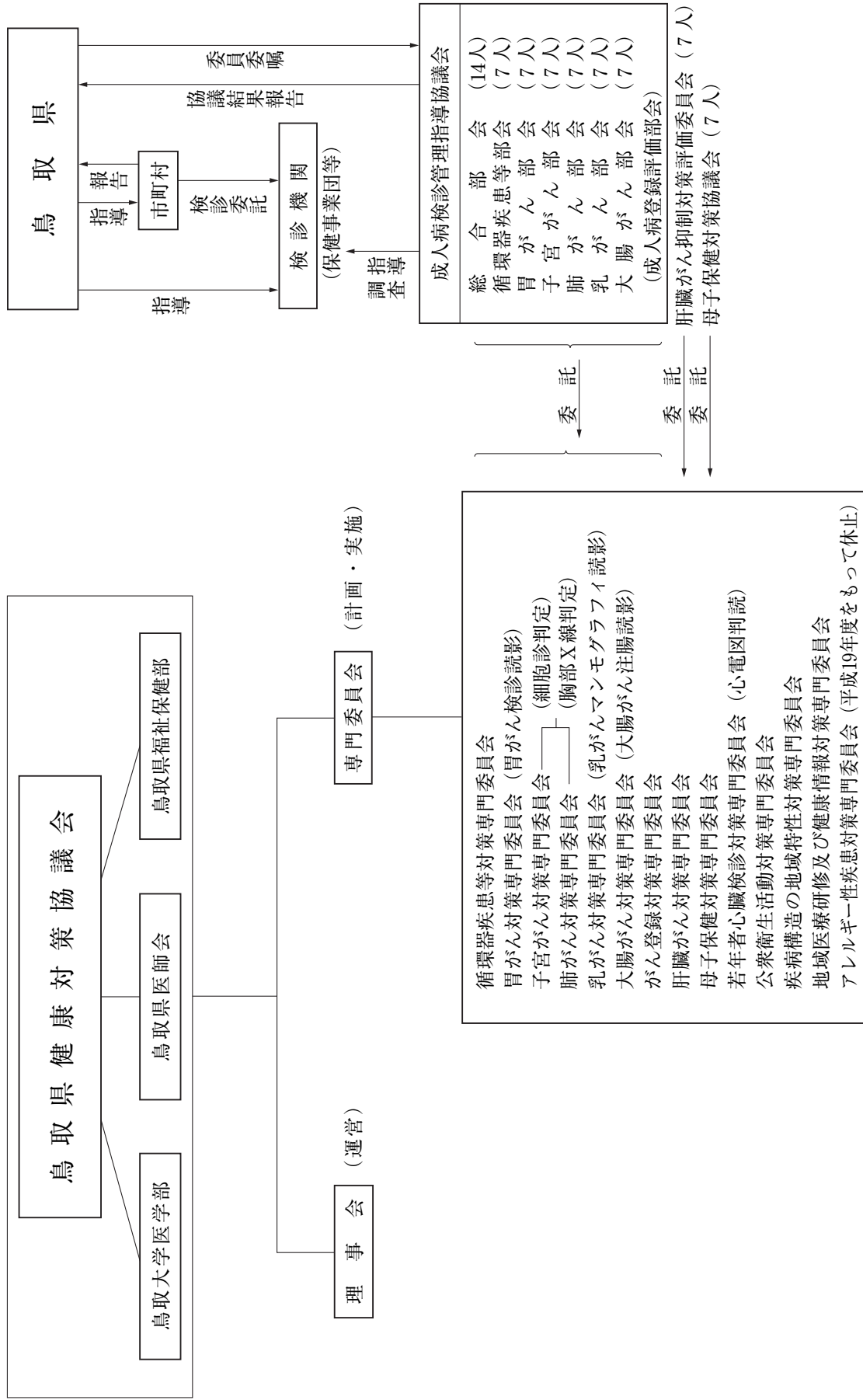
会 長 岡 本 公 男

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成18年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	15
3. 肺がん検診	23
4. 乳がん検診	36
5. 大腸がん検診	48
6. 肝臓がん検診	58
7. 全国がん検診実績との比較	70
III. 平成19年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	76
3. 肺がん検診症例研究会報告	78
4. 乳がん検診症例研究会報告	81
5. 大腸がん検診症例研究会報告	83
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	84
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	87
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	88

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成18年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. **対象者数**：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数
胃、肺、大腸がん検診：40歳以上
乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。(同一人の隔年検診)
子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。
肝炎ウイルス検査：以下の(1)から(4)に該当する者を対象者とする。ただし、いずれの場合も過去にHCV抗体検査を受けたことがある者は除くこととする。
 - (1) 40、45、50、55、60、65、70歳の者
 - (2) 基本健康診査の結果、肝機能（GPT）について要指導（36～45IU）と診断された者
 - (3) 過去に肝機能異常を指摘された者
 - (4) 広範な外科的処置を受けたことのある者又は妊娠・分娩時に多量に出血したことのある者であって定期的に肝機能検査を受けていない者
2. **受診者数**：集団検診、施設検診で検診を受診した人数
3. **受診率**：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合
4. **要精検者数**：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数
5. **要精検率**：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合
6. **精検受診者数**：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数
7. **精検受診率**：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合
8. **がん、がん疑いの人数**：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数
子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。
9. **がん発見率**：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合
10. **陽性反応適中度**：精密検査が必要な者のうち、がんとされた者の割合
11. **確定癌数**：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数
12. **確定癌率**：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 が ん 検 診

1. 胃がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は174,051人のうち、受診者数はX線検査23,247人、平成12年度より導入した内視鏡検査は21,945人で合計45,192人、受診率は26%であった。年々X線検査の減少と内視鏡検査の増加が際だってきている。全国平均受診率が12.4%台に比べ、鳥取県は非常に良い成績である

検査の結果、胃がんであった者は158人発見され（X線検査46人、内視鏡検査112人）、がん発見率は0.35%であった。

X線検査でのがん発見率は0.198%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.51%で約2.6倍も高い。

確定調査の結果、確定癌は166例、発見癌率は0.37%であった。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は23,247人で、受診率は13.4%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は2,162人、要精検率は9.3%。このうち、精密検査を受診したのは1,738人、精検受診率は80.4%であった。車検診においては、各地区の要精検率に格差はなくなったが、病院で受診した人の要精検率が相変わらず19%と高い。医療機関検診でばらつきがあり、特に中部で30.9%と非常に高い。毎年言われている事であるが、改善対策を中部で検討していただきたい。

精検結果は、胃がんであった者は46人で、胃がん発見率は0.198%であった。

- (2) 内視鏡検査は、15市町村で実施され、受診者数は21,945人で、検査結果は胃がんであった者は112人が発見され、発見率は0.51%であった。

内視鏡検査の組織診実施率が9.7%と非常に高い。5%程度が妥当である。ポリープをすべて精検している例やH.ピロリーの検査のための精検もある。組織診実施状況を各地区で調査する事となった。

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成18年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは166例（一次検査がX線検査：車検診28例、施設検診21例、一次検査内視鏡検査：117例）であった。

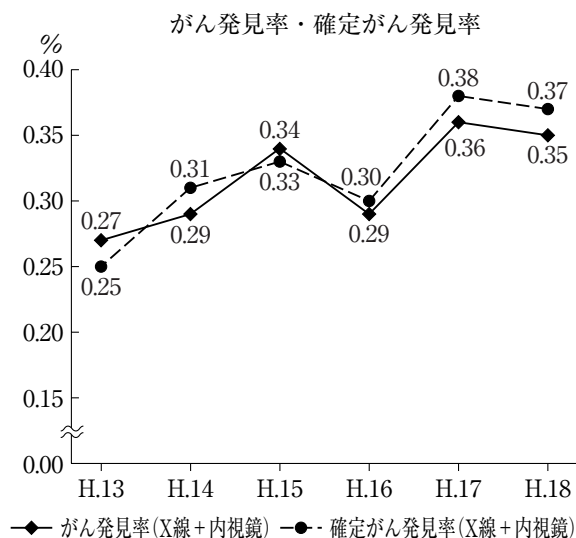
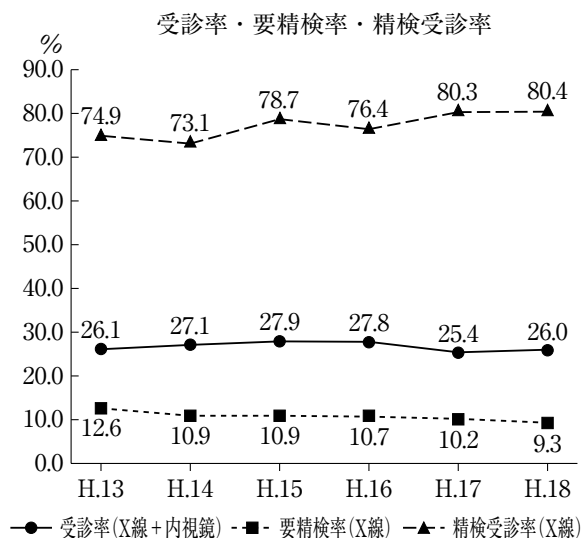
- (1) 早期癌は125例、進行癌は41例であった。早期癌率は75.3%で、東部76.1%、中部85.7%、西部70.4%であった。
- (2) 切除例は145例で、そのうち内視鏡切除が38例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性105例、女性60例であった。男女とも70～79歳から癌が多く見つかっており、全体の半数以上を占めている。また、80歳代のがんも増えている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が59.2%で大半を占めている。進行癌では「2」,「3」で43.9%を占めている。全国集計と同じ傾向であった。
- (5) 切除例の深達度では「t1」が122例で、そのうちmが70例であった。
- (6) 切除例の大きさは2cm以内が43.6%であった。車検診では30.8%、施設検診では47.4%、内視鏡検査では46.2%であった。内視鏡切除が増えたことにより小さい癌が多く見つかっている。
- (7) 肉眼での進行度は内視鏡検査のstage I aが79例と多かった。
- (8) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部1件、中部1件、西部5件であった。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		13 年 度			14 年 度			15 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			167,336			169,754			171,941
	受 診 者 数(人) B	33,904	9,732	43,636	32,738	13,295	46,033	31,587	16,459	48,046
	受 診 率(%) C = B/A	20.3	5.8	26.1	19.3	7.8	27.1	18.4	9.6	27.9
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	29,618			29,175			28,153		
	要 精 検 者 数(人) E	4,286			3,563			3,434		
	要 精 検 率(%) F = E/B	12.6			10.9			10.9		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	3,212			2,604			2,702		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	74.9			73.1			78.7		
精密検査結 果	胃 がん の 者(人) I	70(5)	47(26)	117(31)	43(8)	91(19)	134(27)	70(4)	94(20)	164(24)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.21	0.48	0.27	0.13	0.68	0.29	0.22	0.57	0.34
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E	1.6			1.2			2.0		
確定調査結 果	確 定 がん 数(人) L	67	42	109	53	89	142	69	89	158
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.20	0.43	0.25	0.16	0.67	0.31	0.22	0.54	0.33

区 分		16 年 度			17 年 度			18 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			167,900			177,428			174,051
	受 診 者 数(人) B	28,963	17,666	46,629	25,784	19,339	45,123	23,247	21,945	45,192
	受 診 率(%) C = B/A	17.3	10.5	27.8	14.5	10.9	25.4	13.4	12.6	26.0
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	25,859			23,156			21,085		
	要 精 検 者 数(人) E	3,104			2,628			2,162		
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.7			10.2			9.3		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,372			2,109			1,738		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	76.4			80.3			80.4		
精密検査結 果	胃 がん の 者(人) I	51(7)	85(20)	136(27)	53(7)	109(38)	162(45)	46(11)	112(32)	158(43)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.18	0.48	0.29	0.21	0.56	0.36	0.20	0.51	0.35
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E	1.6			2.0			2.1		
確定調査結 果	確 定 がん 数(人) L	51	87	138	53	117	170	49	117	166
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.18	0.49	0.30	0.21	0.60	0.38	0.21	0.53	0.37

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成18年度胃がんX線検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数 (人)		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	3,594	6,183	207	552	5.8	8.9	7.8	19	30	188	522	9.2	5.4	6.5
45～49歳	4,400	8,004	307	753	7.0	9.4	8.5	39	55	268	698	12.7	7.3	8.9
50～54歳	6,302	8,912	488	1,148	7.7	12.9	10.8	46	94	442	1,054	9.4	8.2	8.6
55～59歳	8,239	11,746	831	2,104	10.1	17.9	14.7	108	148	723	1,956	13.0	7.0	8.7
60～64歳	9,257	12,351	1,057	2,136	11.4	17.3	14.8	118	176	939	1,960	11.2	8.2	9.2
65～69歳	9,589	13,624	1,595	2,606	16.6	19.1	18.1	191	212	1,404	2,394	12.0	8.1	9.6
70～74歳	10,525	14,582	1,721	2,742	16.4	18.8	17.8	195	248	1,526	2,494	11.3	9.0	9.9
75～79歳	8,619	13,600	1,262	1,899	14.6	14.0	14.2	138	178	1,124	1,721	10.9	9.4	10.0
80歳以上	7,929	16,595	799	1,040	10.1	6.3	7.5	80	87	719	953	10.0	8.4	9.1
計	68,454	105,597	8,267	14,980	12.1	14.2	13.4	934	1,228	7,333	13,752	11.3	8.2	9.3
合 計	174,051		23,247		13.4			2,162		21,085		9.3		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応の中度 (%)		
	f		g = f/d			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん h		i = h/b			j = h/d		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	12	24	63.2	80.0	73.5	7	11	5	13	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	25	37	64.1	67.3	66.0	9	4	16	32	0	0	0	1	0.000	0.133	0.094	0.0	1.0	1.1
50～54歳	30	74	65.2	78.7	74.3	6	24	23	49	0	1	1	0	0.205	0.000	0.061	2.2	2.0	0.7
55～59歳	72	117	66.7	79.1	73.8	7	34	62	80	0	1	3	2	0.361	0.095	0.170	2.8	3.0	2.0
60～64歳	90	147	76.3	83.5	80.6	26	49	63	97	0	0	1	1	0.095	0.047	0.063	0.8	4.0	0.7
65～69歳	154	183	80.6	86.3	83.6	35	55	113	124	0	2	6	2	0.376	0.077	0.190	3.1	5.0	2.0
70～74歳	155	217	79.5	87.5	84.0	38	63	108	149	1	1	8	4	0.465	0.146	0.269	4.1	6.0	2.7
75～79歳	114	148	82.6	83.1	82.9	24	34	83	112	1	1	6	1	0.475	0.053	0.221	4.3	7.0	2.2
80歳以上	66	73	82.5	83.9	83.2	15	20	40	51	2	1	9	1	1.126	0.096	0.544	11.3	8.0	6.0
計	718	1,020	76.9	83.1	80.4	167	294	513	707	4	7	34	12	0.411	0.080	0.198	3.6	9.0	2.1
合 計	1,738		80.4			461		1,220		11		46		0.198			2.1		

3) 検査機関別

a. 一次検診結果

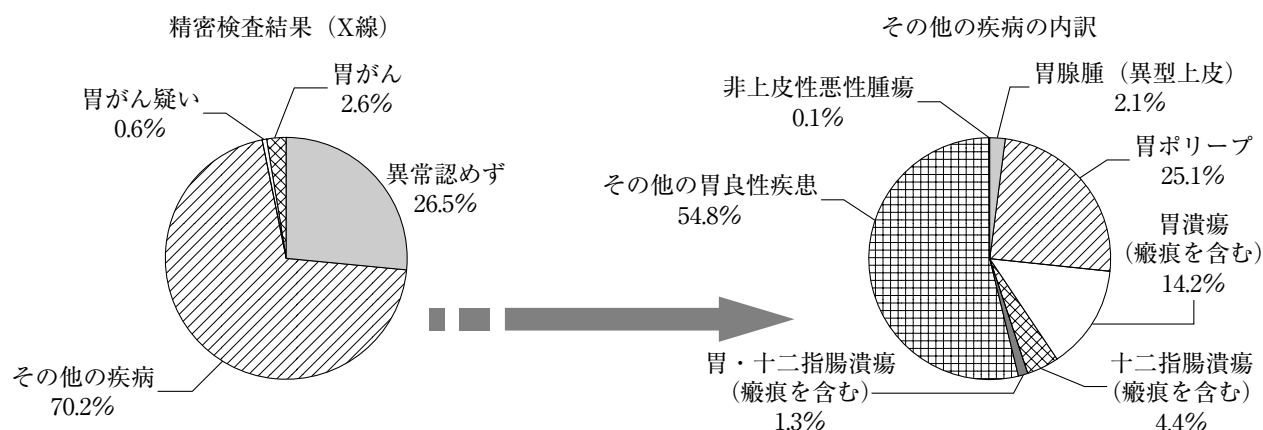
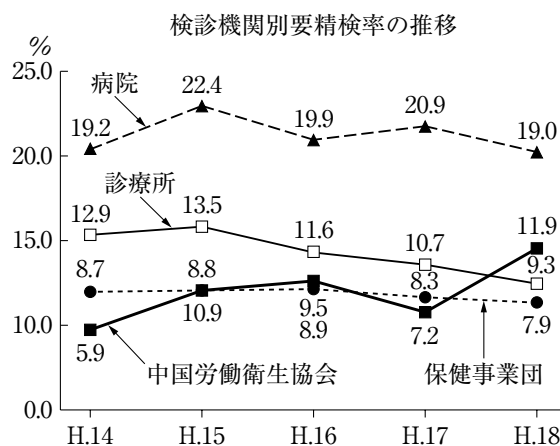
一次検診機関	一次検診受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	5,332	9,434	525	637	4,807	8,797	9.8	6.8	7.9
中国労働衛生協会	202	225	23	28	179	197	11.4	12.4	11.9
病院	641	1,448	154	243	487	1,205	24.0	16.8	19.0
診療所	2,092	3,873	232	320	1,860	3,553	11.1	8.3	9.3
計	8,267	14,980	934	1,228	7,333	13,752	11.3	8.2	9.3
合 計	23,247		2,162		21,085		9.3		

b. 精密検診結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応的中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'		g' = f'/a'			h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	428	548	81.5	86.0	84.0	107	155	301	382	3	4	17	7	0.319	0.074	0.163	3.2	1.1	2.1
中国労働衛生協会	12	27	52.2	96.4	76.5	7	14	5	13	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
集団検診小計	440	575	80.3	86.5	83.7	114	169	306	395	3	4	17	7	0.307	0.072	0.158	3.1	1.1	2.0
病院	95	180	61.7	74.1	69.3	17	54	72	122	1	2	5	2	0.780	0.138	0.335	3.2	0.8	1.8
診療所	183	265	78.9	82.8	81.2	36	71	135	190	0	1	12	3	0.574	0.077	0.251	5.2	0.9	2.7
医療機関検診小計	278	445	72.0	79.0	76.2	53	125	207	312	1	3	17	5	0.622	0.094	0.273	4.4	0.9	2.3
計	718	1,020	76.9	83.1	80.4	167	294	513	707	4	7	34	12	0.411	0.080	0.198	3.6	1.0	2.1
合計	1,738		80.4			461		1,220		11		46		0.198			2.1		

検診機関別要精検率の推移(%)

一次検診機関	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
保健事業団	8.7	8.8	8.9	8.3	7.9
中国労働衛生協会	5.9	8.8	9.5	7.2	11.9
集団検診小計	8.6	8.8	8.9	8.3	8.0
病院	9.2	22.4	19.9	20.9	19.0
診療所	12.9	13.5	11.6	10.7	9.3
医療機関検診小計	14.9	14.8	14.1	13.3	11.8
合計	10.9	10.9	10.7	10.2	9.3



4) 平成18年度鳥取県胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数				検査結果別人員							
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	がん発見 率(%) Q = O / D
鳥取市	54,000	2,043	4,277	6,320	11.7	129	530	659	10.4	485	73.6	110	356	3	16	375	0.253	2.4	
米子市	45,060	946	2,752	3,698	8.2	68	275	343	9.3	293	85.4	70	213	2	8	223	0.216	2.3	
倉吉市	12,602	1,374	1,07	1,481	11.8	163	35	198	13.4	169	85.4	40	122	2	5	129	0.338	2.5	
境港市	11,573	61	555	616	5.3	6	46	52	8.4	47	90.4	16	30	0	1	31	0.162	1.9	
岩美町	2,525	820	9	829	32.8	55	2	57	6.9	55	96.5	17	37	0	1	38	0.121	1.8	
八頭町	8,385	1,600	25	1,625	19.4	103	5	108	6.6	91	84.3	14	74	1	2	77	0.123	1.9	
若桜町	1,401	383	0	383	27.3	16	0	16	4.2	12	75.0	2	10	0	0	10	0.000	0.0	
智頭町	3,459	577	225	802	23.2	38	47	85	10.6	69	81.2	17	50	0	2	52	0.249	2.4	
湯梨浜町	3,201	775	0	775	24.2	73	0	73	9.4	65	89.0	14	48	1	2	51	0.258	2.7	
三朝町	1,294	520	0	520	40.2	52	0	52	10.0	38	73.1	11	25	0	2	27	0.385	3.8	
北栄町	3,804	998	9	1,007	26.5	114	3	117	11.6	99	84.6	29	66	1	3	70	0.298	2.6	
琴浦町	6,479	1,551	7	1,558	24.0	154	0	154	9.9	124	80.5	44	77	1	2	80	0.128	1.3	
南部町	2,525	423	80	503	19.9	34	3	37	7.4	33	89.2	11	21	0	1	22	0.199	2.7	
伯耆町	7,864	917	7	924	11.7	50	3	53	5.7	34	64.2	18	16	0	0	16	0.000	0.0	
日吉津村	1,604	165	0	165	10.3	10	0	10	6.1	8	80.0	4	3	0	1	4	0.606	10.0	
大山町	4,891	996	0	996	20.4	68	0	68	6.8	53	77.9	20	33	0	0	33	0.000	0.0	
日南町	1,652	316	0	316	19.1	15	0	15	4.7	11	73.3	2	9	0	0	9	0.000	0.0	
日野町	1,071	339	1	340	31.7	18	0	18	5.3	14	77.8	2	12	0	0	12	0.000	0.0	
江府町	661	389	0	389	58.9	47	0	47	12.1	38	80.9	20	18	0	0	18	0.000	0.0	
合計	174,051	15,193	8,054	23,247	13.4	1,213	949	2,162	9.3	1,738	80.4	461	1,220	11	46	1,277	0.198	2.1	
東部	69,770	5,423	4,536	9,959	14.3	341	584	925	9.3	712	77.0	160	527	4	21	552	0.211	2.3	
中部	27,380	5,218	123	5,341	19.5	556	38	594	11.1	495	83.3	138	338	5	14	357	0.262	2.4	
西部	76,901	4,552	3,395	7,947	10.3	316	327	643	8.1	531	82.6	163	355	2	11	368	0.138	1.7	

※ がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

(3) 平成18年度胃がん内視鏡検診結果

1) 年齢階級別

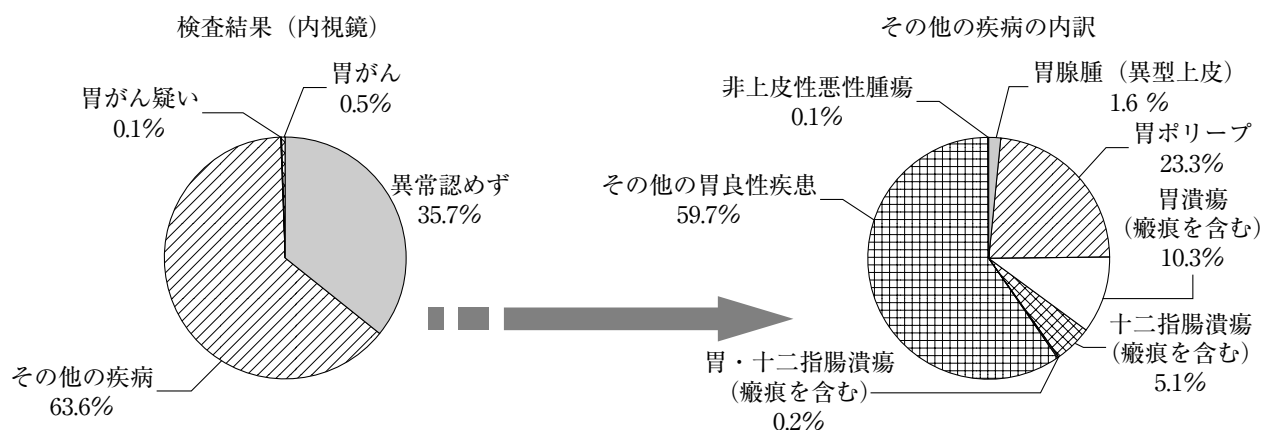
年 齢	一次検診 受診者数(人) a		精 密 検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	131	388	44	162	87	226	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	177	506	51	195	125	311	0	0	1	0	0.565	0.000	0.146
50～54歳	294	728	89	293	205	435	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
55～59歳	587	1,429	182	533	400	892	0	1	5	3	0.852	0.210	0.397
60～64歳	976	1,840	324	738	647	1,097	1	1	4	4	0.410	0.217	0.284
65～69歳	1,591	2,422	502	906	1,076	1,508	3	5	10	3	0.629	0.124	0.324
70～74歳	1,825	2,724	596	1,018	1,204	1,691	1	4	24	11	1.315	0.404	0.769
75～79歳	1,483	2,202	465	818	1,004	1,371	3	4	11	9	0.742	0.409	0.543
80歳以上	1,029	1,613	345	576	669	1,016	3	6	12	15	1.166	0.930	1.022
計	8,093	13,852	2,598	5,239	5,417	8,547	11	21	67	45	0.828	0.325	0.510
合 計	21,945		7,837		13,964		32		112		0.510		

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

2) 検診機関別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a'		精 密 検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	2,264	3,528	472	901	1,776	2,611	5	7	11	9	0.486	0.255	0.345
診 療 所	5,829	10,324	2,126	4,338	3,641	5,936	6	14	56	36	0.961	0.349	0.570
計	8,093	13,852	2,598	5,239	5,417	8,547	11	21	67	45	0.828	0.325	0.510
合 計	21,945		7,837		13,964		32		112		0.510		

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上



3) 平成18年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検 査 結 果 別 人 員								
	受診者数 (人) A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	異常 認めず D	その他 の疾病 E	がん疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん発見率 (%) I = G/A
鳥取市	8,431	1,011	12.0	1,532	6,848	9	42	6,899	0.498
米子市	9,066	725	8.0	4,221	4,782	14	49	4,845	0.540
倉吉市	667	67	10.0	386	271	1	9	281	1.349
境港市	1,971	169	8.6	949	1,013	2	7	1,022	0.355
岩美町	225	9	4.0	73	150	2	0	152	0.000
八頭町	56	11	19.6	16	38	2	0	40	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	168	24	14.3	51	115	1	1	117	0.595
湯梨浜町	239	30	12.6	53	184	0	2	186	0.837
三朝町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北栄町	157	13	8.3	35	122	0	0	122	0.000
琴浦町	51	3	5.9	10	41	0	0	41	0.000
南部町	522	56	10.7	334	186	1	1	188	0.192
伯耆町	194	7	3.6	87	107	0	0	107	0.000
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	64	1	1.6	17	47	0	0	47	0.000
江府町	134	10	7.5	73	60	0	1	61	0.746
合 計	21,945	2,136	9.7	7,837	13,964	32	112	14,108	0.510
東 部	8,880	1,055	11.9	1,672	7,151	14	43	7,208	0.484
中 部	1,114	113	10.1	484	618	1	11	630	0.987
西 部	11,951	968	8.1	5,681	6,195	17	58	6,270	0.485

(4) 平成18年度胃がん検診受診状況（X線十内視鏡）

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果および内視鏡検査結果別人員						
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん 発見率 (%) K=I/D	
鳥取市	54,000	6,320	8,431	14,751	27.3	1,642	7,204	12	58	7,274	0.393	
米子市	45,060	3,698	9,066	12,764	28.3	4,291	4,995	16	57	5,068	0.447	
倉吉市	12,602	1,481	667	2,148	17.0	426	393	3	14	410	0.652	
境港市	11,573	616	1,971	2,587	22.4	965	1,043	2	8	1,053	0.309	
岩美町	2,525	829	225	1,054	41.7	90	187	2	1	190	0.095	
八頭町	8,385	1,625	56	1,681	20.0	30	112	3	2	117	0.119	
若桜町	1,401	383	0	383	27.3	2	10	0	0	10	0.000	
智頭町	3,459	802	168	970	28.0	68	165	1	3	169	0.309	
湯梨浜町	3,201	775	239	1,014	31.7	67	232	1	4	237	0.394	
三朝町	1,294	520	0	520	40.2	11	25	0	2	27	0.385	
北栄町	3,804	1,007	157	1,164	30.6	64	188	1	3	192	0.258	
琴浦町	6,479	1,558	51	1,609	24.8	54	118	1	2	121	0.124	
南部町	2,525	503	522	1,025	40.6	345	207	1	2	210	0.195	
伯耆町	7,864	924	194	1,118	14.2	105	123	0	0	123	0.000	
日吉津村	1,604	165	0	165	10.3	4	3	0	1	4	0.606	
大山町	4,891	996	0	996	20.4	20	33	0	0	33	0.000	
日南町	1,652	316	0	316	19.1	2	9	0	0	9	0.000	
日野町	1,071	340	64	404	37.7	19	59	0	0	59	0.000	
江府町	661	389	134	523	79.1	93	78	0	1	79	0.191	
合計	174,051	23,247	21,945	45,192	26.0	8,298	15,184	43	158	15,385	0.350	
東部	69,770	9,959	8,880	18,839	27.0	1,832	7,678	18	64	7,760	0.340	
中部	27,380	5,341	1,114	6,455	23.6	622	956	6	25	987	0.387	
西部	76,901	7,947	11,951	19,898	25.9	5,844	6,550	19	69	6,638	0.347	

(5) 平成18年度胃がん検診発見がん患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確定胃癌数	7	14	46	17	0	11	4	7	60	166
癌発見率%	0.129	0.309	0.518	0.326	0.000	0.987	0.088	0.206	0.502	
	67 0.356			28 0.434			71 0.357			0.367
早期癌数	6	12	33	14	0	10	3	3	44	125
早期癌率%	51 76.1			24 85.7			50 70.4			
進行癌数	1	2	13	3	0	1	1	4	16	41
切除例	7	12	37	15	0	11	4	7	52	145
内視鏡切除例	3	4	14	2	0	2	1	2	10	38
非切除例	0	2	3	2	0	0	0	0	8	15

手術拒否：3 手術不能：12

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	1	6	21	57	20	105
女	1	6	12	25	16	60

不明：1

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	1	0	1	1	0	0	0	0	0	3	2.4%
II a	1	1	7	5	0	0	1	1	2	18	14.4%
II c	4	6	15	5	0	7	2	1	34	74	59.2%
II c + III	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3	2.4%
II a + II c	0	3	7	1	0	2	0	1	4	18	14.4%
その他	0	0	2	1	0	0	0	0	2	5	4.0%
不明	0	1	1	0	0	0	0	0	2	4	3.2%
計	6	12	33	14	0	10	3	3	44	125	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3	7.3%
2	0	1	3	2	0	1	1	2	3	13	31.7%
3	0	0	1	0	0	0	0	1	3	5	12.2%
4	0	0	2	0	0	0	0	0	2	4	9.8%
5	0	0	6	0	0	0	0	1	1	8	19.5%
不明	0	1	0	1	0	0	0	0	6	8	19.5%
計	1	2	13	3	0	1	1	4	16	41	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1	6	11	32	14	0	10	3	3	43	122
m	6	2	20	7	0	5	1	2	27	70
t2	1	0	9	1	0	1	1	4	8	25
t3	0	1	4	0	0	0	0	0	2	7
t4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	12	45	15	0	11	4	7	53	154
不明	0	2	1	2	0	0	0	0	7	12

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)	21 ～ 50	51 ～	計	不明
車	2	6	8 30.8%	13	5	26	2
施	1	8	9 47.4%	5	5	19	2
内	15	33	48 46.2%	42	14	104	13
計	18	47	65 43.6%	60	24	149	17

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	3	1	19
M	14	6	38
L	5	7	27
全 体	0	0	0
計	22	14	84
不明	1	1	3

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	8	8	31
大 弯	4	2	17
前 壁	5	1	16
後 壁	5	3	19
全 周	0	0	0
計	22	14	83
不明	1	1	4

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	1	8
M	2	1	10
L	0	3	6
全 体	0	0	5
計	3	5	29
不明	2	1	1

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	1	4	12
大 弯	0	0	1
前 壁	0	1	4
後 壁	2	0	5
全 周	0	0	6
計	3	5	28
不明	2	1	2

表 8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計		
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診
I a	6	9	32	14	0	8	3	3	39	23	12	79
I b	0	2	6	1	0	2	0	1	5	1	3	13
II	0	0	1	0	0	1	1	1	4	1	1	6
III a	1	1	2	0	0	0	0	1	1	1	2	3
III b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IV	0	0	2	2	0	0	0	1	3	2	1	5
計	7	12	43	17	0	11	4	7	52	28	19	106
不明	0	2	3	0	0	0	0	0	8	0	2	11

表 9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占 拠 部 位	前年度検診結果		備 考
									検診方式	一次検診結果	
東部	内	76	女	5	t2 (mp)	por 2	20×18	U 小弯	施設・内視鏡	精検不要	
中部	車	74	男	2	不明	不明	不明	不明	車・X線	異常なし	肝転移、手術不能
西部	施	67	男	3	t2 (ss)	por 1	53×42	L 前壁	車・X線	異常なし	
		79	男	2	t2 (mp)	pap	20×18	U 小弯	施設・X線	異常なし	
	内	71	男	5	t2 (mp)	por 1	50×40	U 小弯	施設・内視鏡	胃ポリープ (要治療)	
		86	女	2	t2 (mp)	tub 2	53×20	L 後壁	施設・X線	異常なし	
		81	女	2	t2 (mp)	por 2	27×16	U 後壁小弯	施設・X線	異常なし	

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

対象者数(20歳以上の女性のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数)は133,255人で、このうち受診者数は24,150人(「頸部のみ」23,573人、「頸部+体部」577人)で受診率は18.1%と前年度比0.6ポイント増加した。

一次検診の結果、要請検者数は96人、要請検率は0.40%。そのうち、精密検査受診者は80人で、精検受診率は83.3%であった。精密検査の結果、がん16人、がん発見率は(がん/受診者数)0.07%。陽性反応的中度(がん/要精検者数)は16.7%であった。異形成は36人(軽度25人、高度11人)であった。がんは平成17年度に比べ、6人増加し、がん発見率は0.03ポイント増加した。

20歳代の受診者数が少ないこと、市部の受診率が全国受診率より低率であること、また、20歳~29歳の受診者は少ないが、要精検率は1.32%と高く、その中から軽度・高度異形成の者も発見されていることから、更なる受診率向上の取り組みが必要である。

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者24,150人中、体部がん検診対象者数は672人で、一次検診会場での受診者は577人、また一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者が20人、受診者の合計は597人で、受診率は88.8%であった。

一次検診の結果、要精検となった者は22人、要精検率3.81%で、精密検査受診者数17人、精検受診率77.3%であった。

精検の結果、子宮体部がん1人、また医療機関での別途受診者から子宮体部がんが1人発見され、合わせると、がん発見率は0.34%であった。また、子宮内膜増殖症は2人発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

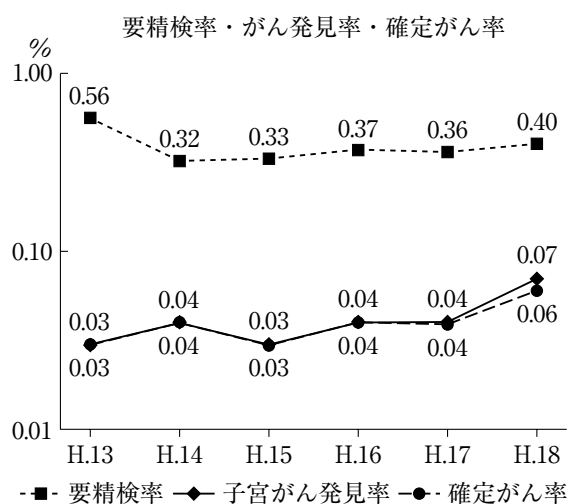
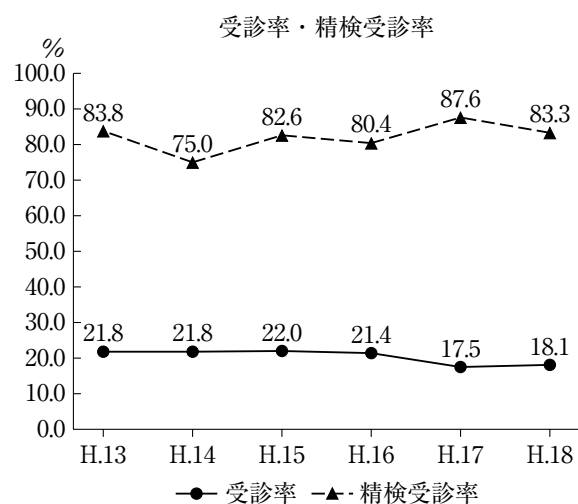
平成18年度は子宮頸部癌15名で、0期が12例、I a期が1例、I b期以上が2例で、上皮癌が増加している。

I b期以上2例の検診歴は、前年度受診1例、2年前受診1例であった。異形成が36例あった。また、子宮体部癌2例で早期癌であった。子宮内膜増殖症は2例であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	121,326	125,040	125,191	122,868	139,203	133,255
	受 診 者 数(人) B	26,486	27,197	27,483	26,333	24,416	24,150
	受 診 率(%) C = B / A	21.8	21.8	22.0	21.4	17.5	18.1
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	26,338	27,109	27,391	26,236	24,327	24,054
	要 精 検 者 数(人) E	148	88	92	97	89	96
	要 精 検 率(%) F = E / B	0.56	0.32	0.33	0.37	0.36	0.40
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	124	66	76	78	78	80
	精 検 受 診 率(%) H = G / E	83.8	75.0	82.6	80.4	87.6	83.3
精 密 検 査 結 果	子 宮 がん の 者(人) I	8(41)	11(22)	8(34)	10(25)	10(42)	16(36)
	子 宮 がん 発 見 率(%) J = I / B	0.03	0.04	0.03	0.04	0.04	0.07
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I / E	5.4	12.5	8.7	10.3	11.2	16.7
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	8	12	8	11	9	15
	確 定 がん 率(%) M = L / B	0.03	0.04	0.03	0.04	0.04	0.06

- * 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- * がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成18年度子宮頸部がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 (再掲)	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
					要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	5,262	83	1.6	11	2	81	2.41
25～29歳	5,390	295	5.5	79	3	292	1.02
30～34歳	7,272	1,431	19.7	683	11	1,420	0.77
35～39歳	6,261	1,562	24.9	1,072	11	1,551	0.70
40～44歳	6,875	1,892	27.5	1,377	21	1,871	1.10
45～49歳	8,773	2,092	23.8	1,665	17	2,075	0.81
50～54歳	9,698	2,334	24.1	1,825	13	2,321	0.56
55～59歳	12,958	3,388	26.1	2,813	7	3,381	0.21
60～64歳	13,023	3,062	23.5	2,600	2	3,060	0.07
65～69歳	14,181	3,274	23.1	2,919	3	3,271	0.09
70～74歳	14,743	2,854	19.4	2,580	6	2,848	0.21
75～79歳	13,312	1,451	10.9	1,298	0	1,451	0.00
80歳以上	15,507	432	2.8	388	0	432	0.00
計	133,255	24,150	18.1	19,310	96	24,054	0.40

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査率 (%) g = f/d	精密検査結果							子宮がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/d	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	子宮がん k = l + m	子宮がん					
							軽度異形成 i	高度異形成 j	上皮内がん l			浸潤がん m
20～24歳	2	100.0	1	0	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	2	66.7	0	0	2	0	2	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	9	81.8	0	0	7	5	2	2	2	0	0.140	18.2
35～39歳	10	90.9	2	0	6	6	0	2	2	0	0.128	18.2
40～44歳	17	81.0	8	0	8	5	3	1	1	0	0.053	4.8
45～49歳	14	82.4	3	1	5	3	2	5	3	2	0.239	29.4
50～54歳	10	76.9	3	2	2	2	0	3	3	0	0.129	23.1
55～59歳	7	100.0	4	0	2	2	0	1	1	0	0.030	14.3
60～64歳	2	100.0	2	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
65～69歳	2	66.7	0	0	1	1	0	1	1	0	0.031	33.3
70～74歳	5	83.3	2	0	2	0	2	1	0	1	0.035	16.7
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	80	83.3	25	3	36	25	11	16	13	3	0.066	16.7

3) 検診機関別

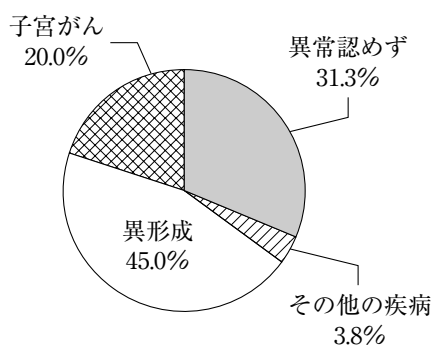
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要精検査率 (%) c' = b'/a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	9,798	24	9,774	0.24
病 院	6,408	23	6,385	0.36
診 療 所	7,944	49	7,895	0.62
計	24,150	96	24,054	0.40

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査率 (%) e' = d'/b'	精密検査結果							子宮頸部がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/b'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	子宮がん i' = j' + k'	子宮がん					
							軽度異形成 g'	高度異形成 h'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	21	87.5	10	1	8	3	5	2	1	1	0.020	8.3
病 院	23	100.0	6	1	6	5	1	10	8	2	0.156	43.5
診 療 所	36	73.5	9	1	22	17	5	4	4	0	0.050	8.2
計	80	83.3	25	3	36	25	11	16	13	3	0.066	16.7

精密検査結果



4) 平成18年度子宮頸部がん検診受診状況

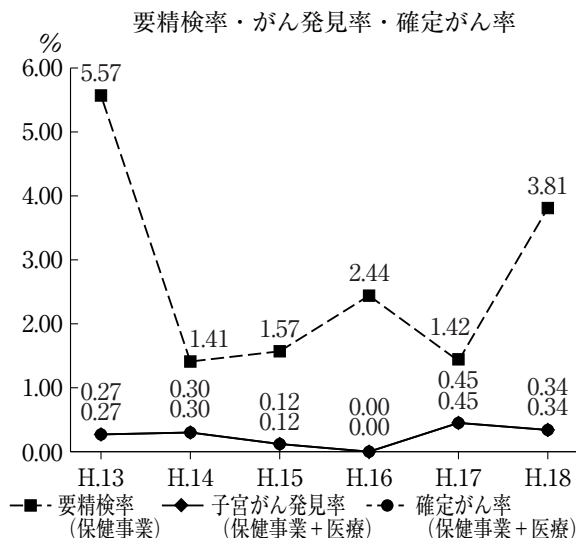
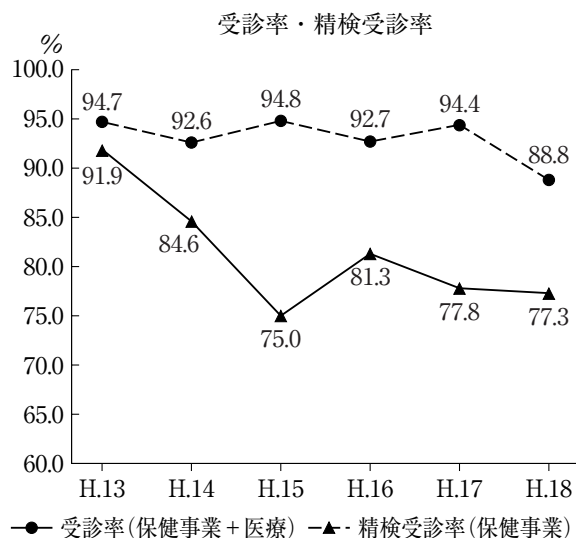
市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員					
	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率(%)	異 常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/H	
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H	
鳥取市	1,742	4,250	5,992	13.9	5	24	29	0.48	21	72.4	6	1	11	3	15	0.050	10.3	
米子市	116	6,017	6,133	17.8	0	36	36	0.59	31	86.1	9	1	13	8	22	0.130	22.2	
倉吉市	506	822	1,328	13.9	2	2	4	0.30	3	75.0	0	0	3	0	3	0.000	0.0	
境港市	0	949	949	11.2	0	6	6	0.63	6	100.0	1	0	2	3	5	0.316	50.0	
岩美町	679	26	705	32.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
八頭町	1,128	43	1,171	20.0	2	0	2	0.17	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000	0.0	
若桜町	350	8	358	31.2	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
智頭町	439	189	628	26.5	1	1	2	0.32	2	100.0	1	1	0	0	1	0.000	0.0	
湯梨浜町	412	550	962	33.6	2	1	3	0.31	3	100.0	1	0	1	1	2	0.104	33.3	
三朝町	371	0	371	48.2	1	0	1	0.27	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0	
北栄町	950	71	1,021	32.6	1	0	1	0.10	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0	
琴浦町	1,167	33	1,200	24.8	5	0	5	0.42	5	100.0	3	0	2	0	2	0.000	0.0	
南部町	295	270	565	33.8	1	1	2	0.35	1	50.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0	
伯耆町	566	249	815	14.9	3	0	3	0.37	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000	0.0	
日吉津村	43	227	270	22.5	0	1	1	0.37	1	100.0	0	0	1	0	1	0.000	0.0	
大山町	558	307	865	22.9	1	0	1	0.12	1	100.0	0	0	0	1	1	0.116	100.0	
日南町	274	0	274	19.7	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日野町	202	35	237	33.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
江府町	467	306	306	65.5	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
合 計	9,798	14,352	24,150	18.1	24	72	96	0.40	80	83.3	25	3	36	16	55	0.066	16.7	
東 部	4,338	4,516	8,854	16.2	8	25	33	0.37	25	75.8	9	2	11	3	16	0.034	9.1	
中 部	3,406	1,476	4,882	23.1	11	3	14	0.29	13	92.9	4	0	8	1	9	0.020	7.1	
西 部	2,054	8,360	10,414	18.1	5	44	49	0.47	42	85.7	12	1	17	12	30	0.115	24.5	

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分	13年度			14年度			15年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	785		785	1,084		1,084	885		885
	受診者数(人) B	664	79	743	921	83	1,004	762	77	839
	受診率(%) C = B / A	84.6		94.7	85.0		92.6	86.1		94.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	627		908			750			
	要精検者数(人) E	37		13			12			
	要精検率(%) F = E / B	5.57		1.41			1.57			
精密検査	精検受診者数(人) G	34		11			9			
	精検受診率(%) H = G / E	91.9		84.6			75.0			
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	2(6)	0(2)	2(8)	1(4)	2(5)	3(9)	1(3)	0(4)	1(7)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.30	0.00	0.27	0.11	2.41	0.30	0.13	0.00	0.12
	陽性反応適中度(%) K = I / E	5.4		7.7			8.3			
確定調査結果	確定がん数(人) L			2			3			1
	確定がん率(%) M = L / B			0.27			0.30			0.12

区分	16年度			17年度			18年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	743		743	710		710	672		672
	受診者数(人) B	657	32	689	636	34	670	577	20	597
	受診率(%) C = B / A	88.4		92.7	89.6		94.4	85.9		88.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	641		627			555			
	要精検者数(人) E	16		9			22			
	要精検率(%) F = E / B	2.44		1.42			3.81			
精密検査	精検受診者数(人) G	13		7			17			
	精検受診率(%) H = G / E	81.3		77.8			77.3			
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	0(1)	0(2)	0(3)	3(2)	0(2)	3(4)	1(1)	1(1)	2(2)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.00	0.00	0.00	0.47	0.00	0.45	0.17	5.00	0.34
	陽性反応適中度(%) K = I / E	0.0		33.3			4.5			
確定調査結果	確定がん数(人) L			0			3			2
	確定がん率(%) M = L / B			0.00			0.45			0.34

※ 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
 ※ 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
 ※ がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
 ※ 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成18年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 対象者数(人) a	一次検診 受診者数 b	受診率(%) c = b / a	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
				要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	1	0	0.0	0	0	0.00
25～29歳	4	4	100.0	0	4	0.00
30～34歳	16	15	93.8	1	14	6.67
35～39歳	52	49	94.2	0	49	0.00
40～44歳	85	78	91.8	1	77	1.28
45～49歳	135	124	91.9	4	120	3.23
50～54歳	144	120	83.3	11	109	9.17
55～59歳	95	84	88.4	2	82	2.38
60～64歳	64	51	79.7	2	49	3.92
65～69歳	33	23	69.7	0	23	0.00
70～74歳	29	21	72.4	1	20	4.76
75～79歳	10	5	50.0	0	5	0.00
80歳以上	4	3	75.0	0	3	0.00
計	672	577	85.9	22	555	3.81

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人) f	精検受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				子宮体部 がん発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / d
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子 宮 体部がん h		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
30～34歳	1	100.0	1	0	0	0	0.000	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
40～44歳	1	100.0	1	0	0	0	0.000	0.0
45～49歳	3	75.0	3	0	0	0	0.000	0.0
50～54歳	8	72.7	7	1	0	0	0.000	0.0
55～59歳	2	100.0	2	0	0	0	0.000	0.0
60～64歳	2	100.0	0	0	1	1	1.961	50.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	17	77.3	14	1	1	1	0.173	4.5

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検査 受診者数(人) k	精 密 検 査 結 果				子宮体部がん発見率 (%) m = l / k
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん l	
20～24歳	1	1	0	0	0	0.000
25～29歳	0	0	0	0	0	0.000
30～34歳	0	0	0	0	0	0.000
35～39歳	3	3	0	0	0	0.000
40～44歳	1	1	0	0	0	0.000
45～49歳	1	1	0	0	0	0.000
50～54歳	4	4	0	0	0	0.000
55～59歳	7	6	0	0	1	14.286
60～64歳	0	0	0	0	0	0.000
65～69歳	1	1	0	0	0	0.000
70～74歳	1	1	0	0	0	0.000
75～79歳	1	0	0	1	0	0.000
80歳以上	0	0	0	0	0	0.000
計	20	18	0	1	1	5.000

4) 平成18年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				検査結果別人員					
	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検受診 率(%)	異 常 認めず	その他 の疾病	子宮内膜 増殖症	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/H	
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P	Q	R	
鳥取市	0	233	233	84.1	0	7	7	3.00	2	28.6	2	0	0	0	0	0.000	0.0	
米子市	0	200	200	100.0	0	5	5	2.50	5	100.0	4	0	1	0	1	0.000	0.0	
倉吉市	1	52	53	86.9	0	5	5	9.43	5	100.0	4	1	0	0	1	0.000	0.0	
境港市	0	13	13	48.1	0	1	1	7.69	1	100.0	0	0	0	1	1	7.692	100.0	
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
八頭町	7	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
智頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
湯梨浜町	35	0	33	94.3	0	2	2	6.06	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000	0.0	
三朝町	1	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
北栄町	7	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
琴浦町	5	0	0	0.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
南部町	20	1	14	75.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
伯耆町	2	1	1	50.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日吉津村	10	0	8	80.0	0	2	2	25.00	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000	0.0	
大山町	13	0	13	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日野町	1	0	1	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
江府町	7	0	7	100.0	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
合計	673	3	574	85.7	0	22	22	3.81	17	77.3	14	1	1	1	3	0.173	4.5	
東部	284	0	233	82.0	0	7	7	3.00	2	28.6	2	0	0	0	0	0.000	0.0	
中部	109	1	85	78.9	0	7	7	8.14	7	100.0	6	1	0	0	1	0.000	0.0	
西部	280	2	256	92.1	0	8	8	3.10	8	100.0	6	0	1	1	2	0.388	12.5	

(5) 平成18年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成17年度	平成18年度	平成17年度	平成18年度
異形成	7	8	36	28
頸癌0期	0	1	1	11
頸癌I a期	0	1	2	0
頸癌I b期以上	1	0	5	2
合計	8	10	44	41

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成17年度	平成18年度
内膜増殖症	2	2
体癌I a、I b期	1	2
体癌I c期以上	2	0
合計	5	4

表3 発見子宮がん症例（I b期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	1	1
2年間隔	0	1	1
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	0	0	0

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌I a期	頸癌I b期以上
鳥取大学	1	1	1
県立中央	2	0	1
鳥取市立	0	0	0
鳥取赤十字	0	0	0
倉吉厚生	1	0	0
博愛病院	6	0	0
済生会境港	1	0	0
脇田医院	1	0	0

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成18年度の対象者数（40歳以上の者のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は186,314人で、このうち受診者数は49,296人（車検診：34,128人、施設検診：15,168人）で、受診率は26.5%で、前年度に比べ、対象者数が4,904人増加したが、受診者数は1,724人減少し、受診率は1.6ポイントの減少であった。

要精検者数は1,780人で、要精検率は3.61%で、平成17年度より、それぞれ121人増加、0.36ポイント増加した。そのうち、精検受診者1,505人、精検受診率84.6%で、平成17年度よりそれぞれ96人増加、0.3ポイント減少した。肺がん検診の受診率は年々減少し、平成18年度は過去最低であった。

確定調査の結果、確定肺がんは67人（原発性62人、転移性5人）で、確定がん率は0.14%となり、平成17年度よりも0.02ポイント増加したが、がん疑いのまま確定がんに至らないケースも依然として多数あった。陽性反応適中度は平成17年度2.7%に較べて、平成18年度は2.6%と0.1ポイント減少したが、全国平均2.36%と比較して高値である。受診率が最低となる中で要精検率、精検受診率、肺がん発見率、陽性反応適中度はいずれも全国平均以上であるが、さらなる精度管理を目指すともに、検診受診率の低下に歯止めをかけることが急務の課題である。

また、受診者総数のうち経年受診者34,634人で69.7%を占め、年々減少傾向である。経年受診者からはがんが30人発見され、がん発見率は0.087%で、非経年受診者からはがんが17人発見され、がん発見率0.114%で、非経年受診者のがん発見率の方が1.30倍高かった。

X線検査受診者49,296人中、喀痰検査の対象者となる高危険群所属者は6,122人（12.4%）で、そのうちがんが14人発見され、がん発見率0.229%、非高危険群所属者43,174人のうちがんが33人発見され、がん発見率0.076%で、高危険群所属者のがん発見率の方が2.99倍高かった。

高危険群所属者は6,122人のうち喀痰検査を受診した者は3,235人で、そのうち要精検者6人、要精検率0.19%、精検受診者4人、がん1人、がん疑いは1人発見されている。

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成18年までの発見肺がんは776人（発見率10万対65人）であった。発見方法は胸部X線680人、喀痰細胞診52人、両者42人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合が減少している。平均年齢は71.7歳、男性484人、女性292人で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が414人（53.4%）で過半数を占め、453人（58.4%）に手術が行われた。予後調査では全症例（776例）の累積生存率は5生率41.3%、10生率23.5%であり、手術例では5生率62.1%、10生率37.6%であった。手術例I A期の5生率は79.5%、10生率は55.6%と良好な結果を示した。

2) 平成18年度調査結果

(1) 受診者数はさらに減少し、初めて50,000人を割った。要精検率は増加しており、精検受診率も引き続き高い傾向である。肺がん発見率は高く、対人口10万人あたり126人と過去最高であった。一方で、肺がん疑いのまま経過観察中の患者も依然として多く、継続フォローの重要性が増している。

(2) 予後調査では、原発性肺がん62例、転移性肺腫瘍5例の合計67例が肺がん確定診断であった。胸部X線のみで発見された肺がんは59/62例（95.2%）と、引き続き高い傾向であった。内訳はE発見が50/59例（84.7%）で、近年の積極的なE判定を反映している。平成18年度も喀痰細胞

診から発見される肺がんは2例のみと少なかった。

- (3) 女性の肺がんは26/62例(41.9%)、腺がんは43/62例(69.4%)と高率で、近年増加傾向にある。
- (4) 臨床病期Ⅰ期は34人(54.8%)とやや減少し、その結果として手術例も38人(61.3%)と若干減少した。
- (5) 腫瘍径は平均26.0mmであった。2 cm以下が28/62例(45.2%)と過去最高であり、小さながんが多く見つかっている。
- (6) 転移性肺腫瘍は5例で、原発は甲状腺がん2例、前立腺がん1例、不明1例ずつであった。
- (7) 施設検診と車検診との比較を行い、要精検率は施設検診4.4%、車検診3.3%と施設が高く、特に中部地区が10.6%と高い傾向が見られた。原発性肺がん62例のうち、車検診で46例(発見率0.13%)、施設検診16例(0.11%)であった。陽性反応的中度では、車検診の方が高かった。

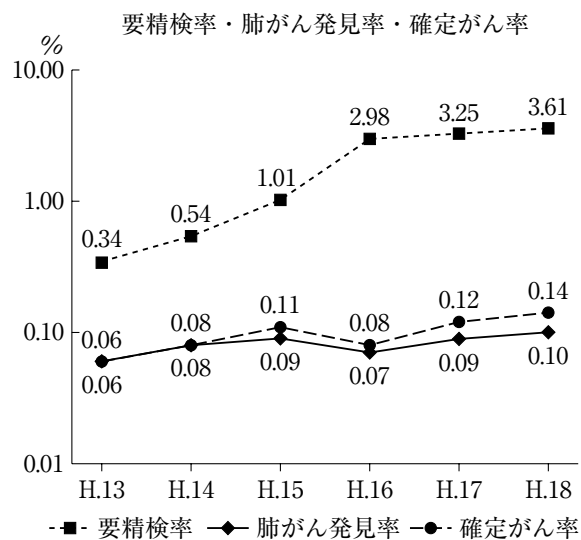
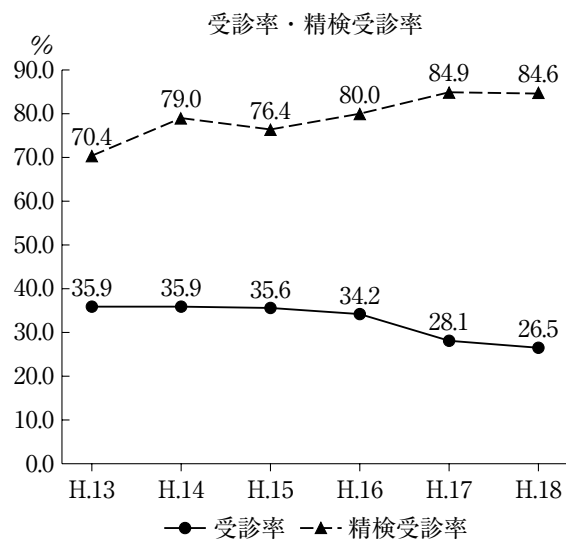
(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	174,453	177,198	178,762	175,873	181,410	186,314
	受 診 者 数(人) B	62,631	63,616	63,649	60,113	51,020	49,296
	受 診 率(%) C = B/A	35.9	35.9	35.6	34.2	28.1	26.5
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	62,415	63,273	63,009	58,327	49,361	47,516
	要 精 検 者 数(人) E	216	343	640	1,791	1,659	1,780
	要 精 検 率(%) F = E/B	0.34	0.54	1.01	2.98	3.25	3.61
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	152	271	489	1,433	1,409	1,505
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	70.4	79.0	76.4	80.0	84.9	84.6
精 密 検 査 結 果	肺 が ん の 者(人) I	39(4)	48(11)	58(20)	45(48)	45(87)	47(75)
	肺 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.06	0.08	0.09	0.07	0.09	0.10
	陽 性 反 応 的 中 度(%) K = I/E	18.1	14.0	9.1	2.5	2.7	2.6
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	37	54	69	51	62	67
	上 記 の うち 原 発 性 肺 が ん 数(人) M	30	48	65	49	56	62
	確 定 が ん 率(%) N = L/B	0.06	0.08	0.11	0.08	0.12	0.14

*精密検査結果中の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上

*がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上

*確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成18年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数(人)		X 線 検 査								X線フィルム読影結果									
			受診者数		受診率(%)		経年受診者数再掲		経年受診者割合(%)		要精検者数		異常認めず		要精検率(%)		X線検査受診者中高危険群所属者			
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
40～44歳	3,583	6,118	342	877	9.5	14.3	12.6	165	442	48.2	50.4	10	19	332	858	2.92	2.17	2.38	23	3
45～49歳	4,280	7,947	461	1,179	10.8	14.8	13.4	284	709	61.6	60.1	13	22	448	1,157	2.82	1.87	2.13	37	7
50～54歳	6,204	9,018	755	1,923	12.2	21.3	17.6	472	1,212	62.5	63.0	31	44	724	1,879	4.11	2.29	2.80	278	21
55～59歳	8,337	12,017	1,456	3,728	17.5	31.0	25.5	900	2,435	61.8	65.3	51	100	1,405	3,628	3.50	2.68	2.91	613	51
60～64歳	9,619	12,782	2,032	4,097	21.1	32.1	27.4	1,285	2,830	63.2	69.1	89	138	1,943	3,959	4.38	3.37	3.70	824	62
65～69歳	10,574	14,295	3,150	5,301	29.8	37.1	34.0	2,198	3,846	69.8	72.6	119	179	3,031	5,122	3.78	3.38	3.53	1,115	75
70～74歳	11,838	15,354	3,772	5,897	31.9	38.4	35.6	2,720	4,389	72.1	74.4	156	198	3,616	5,699	4.14	3.36	3.66	1,237	39
75～79歳	10,469	14,410	3,158	4,865	30.2	33.8	32.2	2,371	3,598	75.1	74.0	152	173	3,006	4,692	4.81	3.56	4.05	974	33
80歳以上	12,083	17,386	2,427	3,876	20.1	22.3	21.4	1,803	2,705	74.3	69.8	132	153	2,295	3,723	5.44	3.95	4.52	712	18
計	76,987	109,327	17,553	31,743	22.8	29.0	26.5	12,198	22,166	69.5	69.8	753	1,026	16,800	30,717	4.29	3.23	3.61	5,813	309
合計	186,314		49,296		26.5		34,364		69.7		1,779		47,517		3.61		6,122			

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	喀痰細胞診受診者数 (人)		喀 痰 細 胞 診 結 果				要精検率(%)		
			要精検者数		精 検 不 要		j = i / h		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	43	6	0	0	43	6	0.00	0.00	0.00
45～49歳	59	15	0	0	59	15	0.00	0.00	0.00
50～54歳	130	21	0	0	130	21	0.00	0.00	0.00
55～59歳	301	57	0	0	301	57	0.00	0.00	0.00
60～64歳	383	69	1	0	382	69	0.26	0.00	0.22
65～69歳	546	107	1	0	545	107	0.18	0.00	0.15
70～74歳	590	67	1	0	589	67	0.17	0.00	0.15
75～79歳	484	50	2	0	482	50	0.41	0.00	0.37
80歳以上	282	25	1	0	281	25	0.35	0.00	0.33
計	2,818	417	6	0	2,812	417	0.21	0.00	0.19
合 計	3,235		6		3,229		0.19		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人) k		精密検査 受診者数 l		精密検査受診率 (%) m = l / k			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%) o = n / b			陽性反応の中度 (%) p = n / k		
	男	女	男	女	男	女	計	異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		男	女	計	男	女	計
								男	女	男	女	男	女	男	女						
40~44歳	10	19	6	17	60.0	89.5	79.3	2	12	4	4	0	0	0	1	0.000	0.114	0.082	0.0	5.3	3.4
45~49歳	13	22	10	21	76.9	95.5	88.6	6	7	4	13	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50~54歳	31	44	24	33	77.4	75.0	76.0	16	19	8	11	0	2	0	1	0.000	0.052	0.037	0.0	2.3	1.3
55~59歳	51	100	40	84	78.4	84.0	82.1	25	45	14	30	1	8	0	1	0.000	0.027	0.019	0.0	1.0	0.7
60~64歳	89	138	79	119	88.8	86.2	87.2	40	60	33	49	3	7	3	3	0.148	0.073	0.098	3.4	2.2	2.6
65~69歳	119	179	102	161	85.7	89.9	88.3	43	83	47	70	7	3	5	5	0.159	0.094	0.118	4.2	2.8	3.4
70~74歳	157	198	133	179	84.7	90.4	87.9	53	91	71	79	7	6	2	3	0.053	0.051	0.052	1.3	1.5	1.4
75~79歳	152	173	131	147	86.2	85.0	85.5	47	71	67	67	5	5	12	4	0.380	0.082	0.199	7.9	2.3	4.9
80歳以上	132	153	102	117	77.3	76.5	76.8	31	53	56	52	9	11	6	1	0.247	0.026	0.111	4.5	0.7	2.5
計	754	1,026	627	878	83.2	85.6	84.6	263	441	304	375	32	43	28	19	0.160	0.060	0.095	3.7	1.9	2.6
合計	1,780		1,505		84.6			704		679		75		47		0.095			2.6		
X線のみ要精検	1,774		1,501		84.6			703		678		74		46		—			2.6		
喀痰のみ要精検	1		0		0.0			0		0		0		0		—			0.0		
X線+喀痰要精検	5		4		80.0			1		1		1		1		—			20.0		

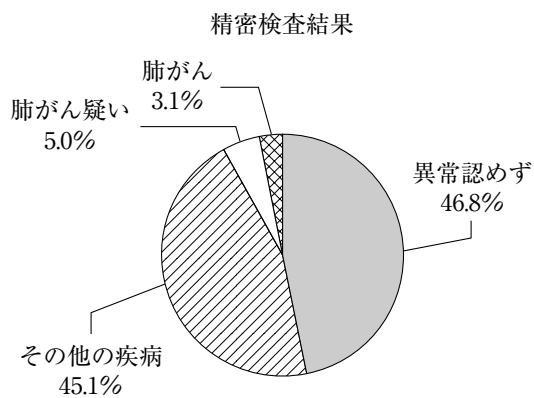
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一 次 検 診 結 果						
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		要精検率(%) c' = b' / a'		
			男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	11,901	21,409	446	636	11,455	20,773	3.75	2.97	3.25
中国労働衛生協会	322	496	13	19	309	477	4.04	3.83	3.91
病 院	2,303	4,034	141	175	2,162	3,859	6.12	4.34	4.99
診 療 所	3,027	5,804	154	196	2,873	5,608	5.09	3.38	3.96
計	17,553	31,743	754	1,026	16,800	30,717	4.30	3.23	3.61
合 計	49,296		1,780		47,516		3.61		

b. 精密検査結果

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応の中度 (%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		g' = f'/a'			h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	370	544	83.1	85.5	84.6	158	263	164	237	26	32	22	12	0.185	0.056	0.102	4.9	1.9	3.1
中国労働衛生協会	8	17	61.5	89.5	78.1	4	8	4	7	0	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病 院	106	142	75.2	81.1	78.5	47	73	55	63	3	3	1	3	0.043	0.074	0.063	0.7	1.7	1.3
診 療 所	143	175	92.9	89.3	90.9	54	97	81	68	3	6	5	4	0.165	0.069	0.102	3.2	2.0	2.6
計	627	878	83.3	85.6	84.6	263	441	304	375	32	43	28	19	0.160	0.060	0.095	3.7	1.9	2.6
合 計	1,505		84.6			704		679		75		47		0.095			2.6		



4) 平成18年度肺がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数				要精検者				精密検査結果別人員						
	車検	診	施設	計	受診率(%)	車検	診	施設	計	要精検率(%)	精検受診率(%)	異認めず	他の疾病	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率(%)	陽性反応的中率(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H		
鳥取市	54,000	3,619	13,663	17,282	32.0	57	524	581	3.36	487	233	225	15	14	254	0.081	2.4		
米子市	51,578	5,583	0	5,583	10.8	229	0	229	4.10	196	76	103	9	8	120	0.143	3.5		
倉吉市	12,602	1,907	711	2,618	20.8	109	73	182	6.95	164	90	65	6	3	74	0.115	1.6		
境港市	11,573	1,093	0	1,093	9.4	32	0	32	2.93	30	23	0	1	6	7	0.549	18.8		
岩美町	2,772	1,085	0	1,085	39.1	23	0	23	2.12	23	17	4	1	1	6	0.092	4.3		
八頭町	8,094	3,358	54	3,412	42.2	68	1	69	2.02	57	30	25	0	2	27	0.059	2.9		
若桜町	1,456	632	0	632	43.4	8	0	8	1.27	7	3	4	0	0	4	0.000	0.0		
智頭町	3,473	1,093	270	1,363	39.2	29	16	45	3.30	35	14	17	1	3	21	0.220	6.7		
湯梨浜町	4,833	2,379	237	2,616	54.1	111	30	141	5.39	126	51	63	12	0	75	0.000	0.0		
三朝町	1,894	1,346	0	1,346	71.1	52	0	52	3.86	43	20	22	1	0	23	0.000	0.0		
北栄町	3,715	2,533	173	2,706	72.8	94	15	109	4.03	89	52	31	6	0	37	0.000	0.0		
琴浦町	8,826	1,096	60	1,156	13.1	33	7	40	3.46	31	7	12	10	2	24	0.173	5.0		
南部町	2,387	1,232	0	1,232	51.6	27	0	27	2.19	24	10	14	0	0	14	0.000	0.0		
伯耆町	7,864	2,144	0	2,144	27.3	95	0	95	4.43	74	34	31	7	2	40	0.093	2.1		
日吉津村	1,604	292	0	292	18.2	7	0	7	2.40	6	1	5	0	0	5	0.000	0.0		
大山町	6,507	3,033	0	3,033	46.6	96	0	96	3.17	77	27	42	3	5	50	0.165	5.2		
日南町	1,093	395	0	395	36.1	3	0	3	0.76	3	1	2	0	0	2	0.000	0.0		
日野町	1,071	490	0	490	45.8	9	0	9	1.84	8	3	3	1	1	5	0.204	11.1		
江府町	972	818	0	818	84.2	32	0	32	3.91	25	12	11	2	0	13	0.000	0.0		
合計	186,314	34,128	15,168	49,296	26.5	1,114	666	1,780	3.61	1,505	704	679	75	47	801	0.095	2.6		
東部	69,795	9,787	13,987	23,774	34.1	185	541	726	3.05	609	297	275	17	20	312	0.084	2.8		
中部	31,870	9,261	1,181	10,442	32.8	399	125	524	5.02	453	220	193	35	5	233	0.048	1.0		
西部	84,649	15,080	0	15,080	17.8	530	0	530	3.51	443	187	211	23	22	256	0.146	4.2		

(3) 平成18年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性776、転移性97）	873例
他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5）	12例

総 計 885例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	49
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	4	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	69	51

	平成17年	平成18年	合計
原発性肺癌	56	62	776
転移性肺腫瘍	6	5	97
合 計	62	67	873

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H18年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	242例	} 680例(87.6%)	Dのみ	9例	} 59例(95.2%)	(E1:26例、E2:13例、不明:11例)
	Eのみ	438例		Eのみ	50例		
細 胞 診	Dのみ	18例	} 52例(6.7%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)	
	Eのみ	34例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 42例(5.4%)	D + D	0例	} 2例(3.2%)	
	D + E	8例		D + E	0例		
	E + D	5例		E + D	1例		
	E + E	19例		E + E	1例		
	不明	2例	2例(0.3%)	不明	1例	1例(1.6%)	
計 776例				計 62例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	49	82
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	56	110
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
計	1,190,187	9,018(0.76%)	7,441(82.5%)	776	65

4) 原発性肺癌 (776例)

(1) 年齢・性別

[H18年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	60例	7.7
60～69歳	236	30.4
70～79歳	350	45.1
80～	130	16.8
計	776	100.0

平均年齢=71.7
男：女=484例：292例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	7例	11.3
60～69歳	16	25.8
70～79歳	27	43.5
80～	12	19.4
計	62	100.0

平均年齢=71.8
男：女=36例：26例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H18年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	292(37.6)
I B	122
II A	26
II B	56
III A	111
III B	55
IV	88
不明	24
計	776

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	29(46.8)
I B	5
II A	2
II B	5
III A	10
III B	7
IV	4
不明	0
計	62

} 34
(54.8%)

b. 組織型

〔H18年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	223例
腺癌	420(54.1)
大細胞癌	12
小細胞癌	46
腺扁平上皮癌	8
腺様嚢胞癌	1
不明	67
計	777

組織型	(%)
扁平上皮癌	10例
腺癌	43(69.4)
大細胞癌	1
小細胞癌	3
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	4
計	62

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例 (453例、
手術率：58.4%)

〔H18年度集計〕

原発性肺癌の手術症例

a. 臨床病期、術後病期

(38例、手術率：61.3%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	248(54.7)	I A	215(47.5)
I B	91	I B	96
II A	13	II A	18
II B	31	II B	35
III A	53	III A	56
III B	12	III B	20
IV	3	IV	11
計	453	計	453

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	25(65.8)	I A	19(50.0)
I B	4	I B	8
II A	1	II A	2
II B	3	II B	3
III A	3	III A	3
III B	2	III B	2
IV	0	IV	1
計	38	計	38

b. 組織型分類

〔18年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	121例
腺癌	300(66.1)
大細胞癌	10
小細胞癌	6
腺扁平上皮癌	9
腺様嚢胞癌	1
不明	7
計	454

組織型	(%)
扁平上皮癌	4例
腺癌	32(84.2)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
不明	0
計	38

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

c. 根治度

〔平成18年度集計〕

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	336例(74.2)
相対的治癒手術	61
相対的非治癒手術	24
絶対的非治癒手術	25
不明	7
計	453

} 397 (87.6%)

根治度分類	(%)
絶対的治癒手術	29例(76.3)
相対的治癒手術	1
相対的非治癒手術	1
絶対的非治癒手術	4
不明	3
計	38

} 30 (78.9%)

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)
0～10	1例	2例	1例	0例	2例	1例	2例	4例	2例
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	11	11	10
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4
不明	4	2	2	0	2	2	0	4	3
計	40	41	42	30	48	65	49	56	62
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	30.2mm	30.6mm	26.0mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm

5) 転移性肺腫瘍 (97例)

大腸がん：24例 甲状腺癌：12例 腎臓癌：10例 乳癌：7例 肝臓癌：7例
 前立腺癌：6例 胆のう癌：3例 卵巣癌：2例 胃癌：3例 肺癌：2例
 子宮癌：3例 尿管癌：3例 食道癌：2例 咽頭癌：1例 肛門癌：1例
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 膵臓癌：1例 膀胱癌：1例
 胆管癌：1例 不明：5例

6) 原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	15,168	34,128
要精検数	666(4.4%) 東部：541(3.9%) 中部：125(10.6%) 西部：—	1,114(3.3%) 東部：185(1.9%) 中部：399(4.3%) 西部：530(3.5%)
確定者数	16名(0.11%)	46名(0.13%)
発見方法	D判定 1名 E判定 15名	D判定 8名 E判定 37名 不明 1名 (X線+喀痰E判定：2名)
年齢	71.0歳	72.1歳
性差	男7名、女9名	男29名、女17名
臨床病期	I A 10名、I B 2名 II A 1名、II B 0名 III A 1名、III B 1名 IV 1名	I A 19名、I B 3名 II A 1名、II B 5名 III A 9名、III B 6名 IV 3名
組織型	扁平上皮癌0名、腺癌13名 腺扁平上皮癌1名、小細胞癌1名 不明1名	扁平上皮癌10名、腺癌30名 大細胞癌1名、小細胞癌2名 不明3名
手術	あり10名、なし6名	あり28名、なし18名
腫瘍径	25.5mm	26.2mm

1. 肺がん または 肺がん疑いの予後調査（平成18年度）

肺がん または 肺がん疑い 122例（東：37、中：40、西：45）

原発性肺がん	62例	（東：25、中：13、西：24）
転移性肺腫瘍	5例	（東：1、中：0、西：4）
経過観察中	31例	（東：2、中：15、西：14）
肺がん否定	24例	（東：9、中：12、西：3）
炎症性腫瘍（陳旧性）	4例	4
結核腫	1例	1
過誤腫	1例	1
CT上否定（消失）	18例	4 12 2

確定肺がん率 50.8%（東：67.6%、中：32.5%、西：53.3%）

確定肺がん率（転移含む） 54.9%（東：70.3%、中：32.5%、西：62.2%）

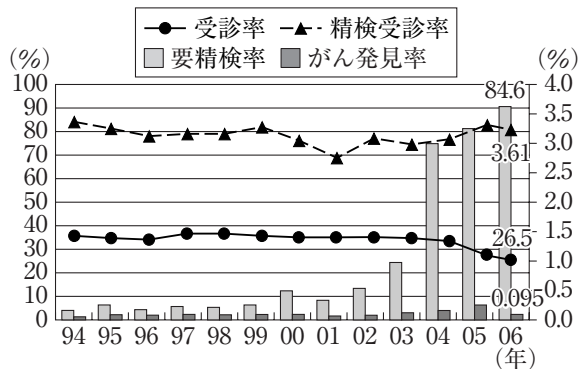
*平成17年度は132例の肺がんまたは肺がん疑い中

56例が原発性肺がん、6例が転移性肺腫瘍

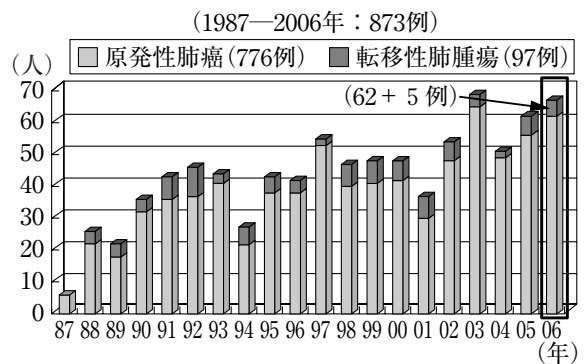
確定肺がん率 42.4%（東：49.2%、中：25.9%、西：43.2%）

確定肺がん率（転移含む） 47.0%（東：54.1%、中：25.9%、西：47.7%）

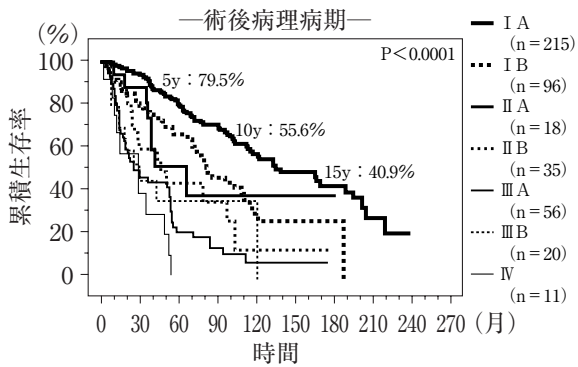
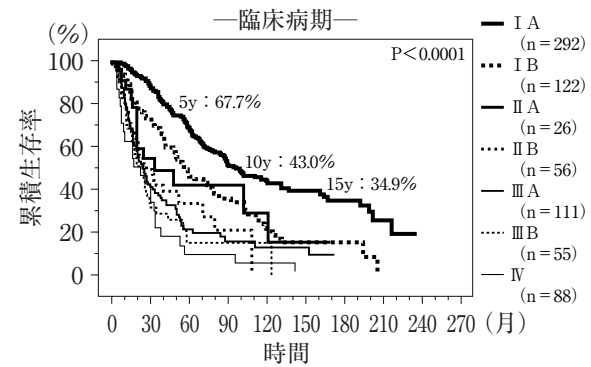
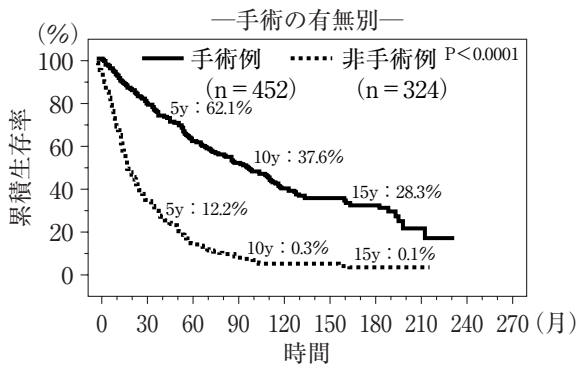
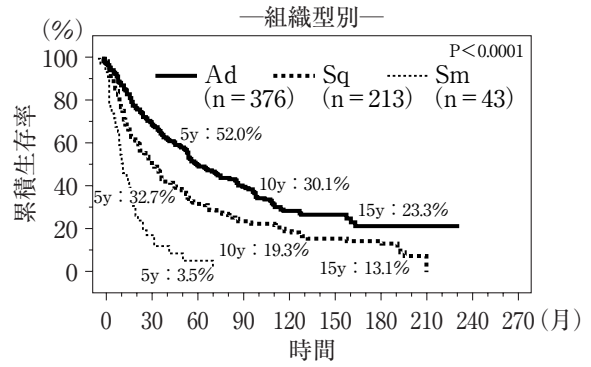
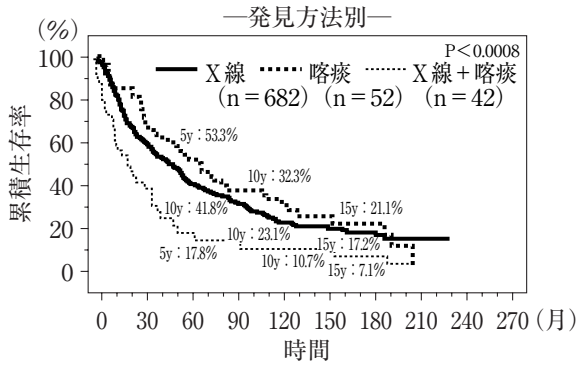
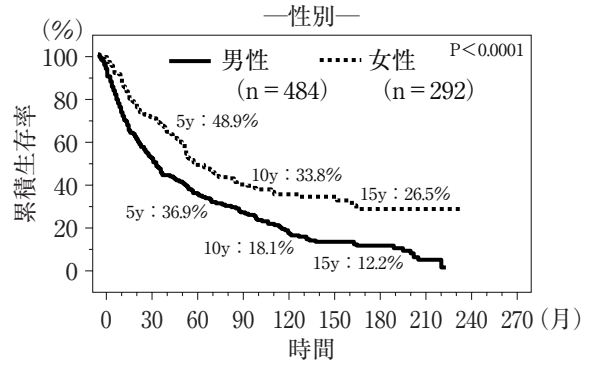
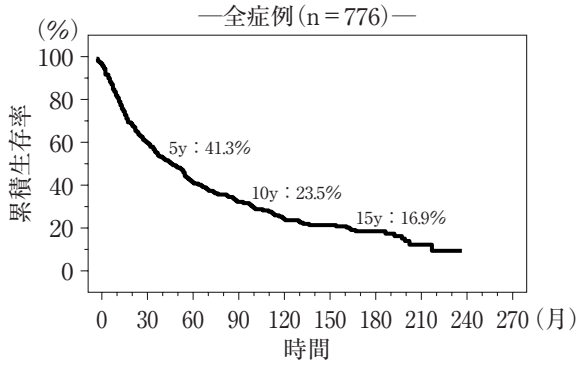
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



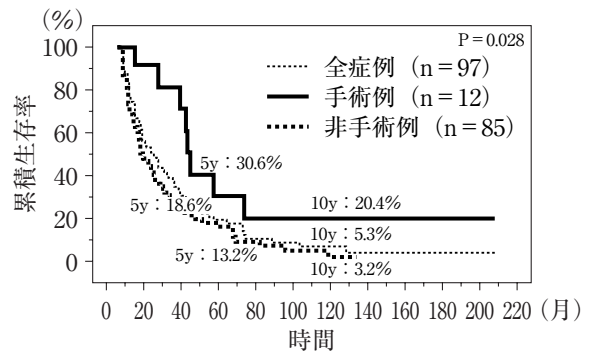
8) 検診で発見された肺癌の推移



9) 検診発見肺癌の予後



10) 検診発見転移性肺腫瘍の予後



4. 乳 が ん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成17年度より40歳以上を対象者とし、同一人が隔年でマンモグラフィ併用検診を行うことに検診内容が変更となった。平成18年度の対象者数は109,634人で、このうち受診者数は13,956人（出張検診：7,085人、施設検診：6,871人）であった。そのうちマンモグラフィ併用検診は19市町村で実施され、12,782人、視触診のみは8市町で実施され、1,172人、マンモグラフィのみは1町で2人に実施され、受診率は12.7%であった。しかし、隔年検診となり、2年間の受診者数で受診率を算出することとなったため、平成18年度の最終受診率は結果的に28.1%となった。

要精検者数は1,510人、要精検率は10.82%で前年度より0.7ポイント増加した。併用検診は11.56%、視触診のみは2.65%で約4倍の開きがあった。

精検受診者数は1,370人、精検受診率は90.7%と前年度を1.8ポイント上回り、過去最高であった。この結果、乳がんが73人発見され、発見率（がん/受診者数）は0.52%、陽性反応的中度（がん/要精検者数）は4.8%であった。平成17年度に比して、それぞれ20人、0.21ポイント、1.8ポイント増加した。ただし、乳がん疑いも7人あった。

視触診及び併用検診からは68人発見され、発見率は0.532%で、視触診のみでは5人発見され、0.427%であった。また、併用検診では要精検率、発見率とも40歳代が高く、最近増えている40歳代の乳がん発見に威力を発揮していると思われる。

地区別でみると要精検率は東部、西部、中部の順に高く、中部以外は全国平均の8%を上回っている。がん発見率は西、東、中部、陽性反応的中度は西、中、東部の順に高かった。

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

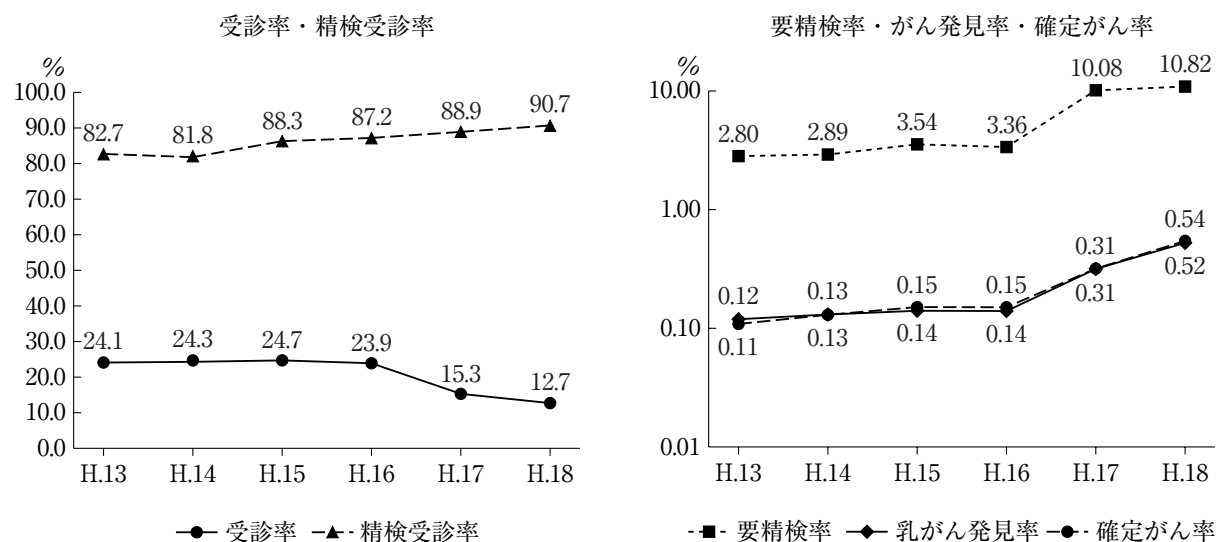
平成18年度に発見された乳がん又は乳がん疑い80例について確定調査を行った結果、75例が確定乳がんで、大幅に増加し、マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が38例（50.7%）であった。特に40歳代の発見が増加した。なかでも40歳代の発見が増加し、マンモグラフィ発見乳がんの方が優位に早期で死亡率減少の期待ができそうである。

非浸潤癌は9例で、乳房温存率は平成17年度に比べ減少した。また、術前化学療法、腋窩郭清省略が一部の施設で施行されはじめた。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
一次検診	対象者数(人) A	123,896	127,944	127,945	125,270	112,384	109,634
	受診者数(人) B	29,840	31,105	31,539	29,888	17,237	13,956
	受診率(%) C = B/A	24.1	24.3	24.7	23.9	15.3	12.7
一次検診結果	異常認めず(人) D	29,003	30,207	30,424	28,885	15,499	12,446
	要精検者数(人) E	837	898	1,115	1,003	1,738	1,510
	要精検率(%) F = E/B	2.80	2.89	3.54	3.36	10.08	10.82
精密検査	精検受診者数(人) G	692	735	985	875	1,545	1,370
	精検受診率(%) H = G/E	82.7	81.8	88.3	87.2	88.9	90.7
精密検査結果	乳がんの者(人) I	36(2)	39(3)	43(6)	43(3)	53(7)	73(7)
	乳がん発見率(%) J = I/B	0.12	0.13	0.14	0.14	0.31	0.52
	陽性反応適中度(%) K = I/E	4.3	4.3	3.9	4.3	3.0	4.8
確定調査結果	確定がん数(人) L	32	41	46	46	53	75
	確定がん率(%) M = L/B	0.11	0.13	0.15	0.15	0.31	0.54

- * 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成18年度乳がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	6,846	1,205	17.6	185	1,020	15.35
45～49歳	8,678	1,086	12.5	160	926	14.73
50～54歳	9,727	1,435	14.8	192	1,243	13.38
55～59歳	12,913	1,893	14.7	205	1,688	10.83
60～64歳	13,198	2,282	17.3	232	2,050	10.17
65～69歳	14,351	2,216	15.4	206	2,010	9.30
70～74歳	14,920	2,310	15.5	216	2,094	9.35
75～79歳	13,411	1,083	8.1	79	1,004	7.29
80歳以上	15,590	446	2.9	35	411	7.85
計	109,634	13,956	12.7	1,510	12,446	10.82

2) 精密検診結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査受診率(%) g = f / d	精密検査結果				乳がん発見率(%) i = h / b	陽性反応適中度(%) j = h / d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	162	87.6	79	74	1	8	0.664	4.3
45～49歳	145	90.6	61	73	1	10	0.921	6.3
50～54歳	170	88.5	74	90	2	4	0.279	2.1
55～59歳	186	90.7	89	84	1	12	0.634	5.9
60～64歳	215	92.7	130	77	0	8	0.351	3.4
65～69歳	187	90.8	113	59	1	14	0.632	6.8
70～74歳	201	93.1	137	54	1	9	0.390	4.2
75～79歳	73	92.4	48	21	0	4	0.369	5.1
80歳以上	31	88.6	14	13	0	4	0.897	11.4
計	1,370	90.7	745	545	7	73	0.523	4.8

3) 検診機関別

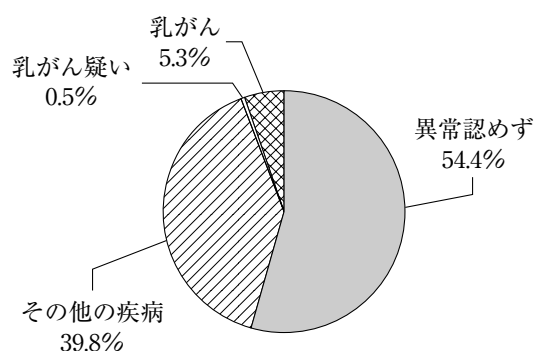
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
医師雇上	721	83	638	11.51
保健事業団	6,249	567	5,682	9.07
中国労働衛生協会	115	21	94	18.26
病院	6,425	831	5,594	12.93
診療所	446	8	438	1.79
計	13,956	1,510	12,446	10.82

b. 精密検診結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査受診率(%) e' = d' / b'	精密検査結果				乳がん発見率(%) g' = f' / a'	陽性反応適中度(%) h' = f' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
医師雇上	72	86.7	47	21	0	4	0.555	4.8
保健事業団	529	93.3	319	188	4	18	0.288	3.2
中国労働衛生協会	20	95.2	8	12	0	0	0.000	0.0
病院	741	89.2	368	321	3	49	0.763	5.9
診療所	8	100.0	3	3	0	2	0.448	25.0
計	1,370	90.7	745	545	7	73	0.523	4.8

精密検査結果



4) 平成18年度乳がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員								
	出張検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	出張検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精検受診者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異常認めず L	その他の 疾病 M	がん疑い N	がん O	有 見 者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/H	陽性反応 適中度 (%) R=O/H
鳥取市	1,063	2,275	3,338	9.0	152	377	529	15.85	483	91.3	302	159	2	20	181	0.599	3.8
米子市	635	1,987	2,622	9.3	50	269	319	12.17	297	93.1	109	162	1	25	188	0.953	7.8
倉吉市	341	291	632	8.9	28	34	62	9.81	58	93.5	19	35	0	4	39	0.633	6.5
境港市	25	824	849	11.4	1	21	22	2.59	20	90.9	10	7	0	3	10	0.353	13.6
岩美町	505	128	633	32.0	57	10	67	10.58	56	83.6	36	16	0	4	20	0.632	6.0
八頭町	686	13	699	16.1	100	2	102	14.59	95	93.1	62	31	2	0	33	0.000	0.0
若桜町	216	0	216	20.8	26	0	26	12.04	24	92.3	18	6	0	0	6	0.000	0.0
智頭町	0	334	334	16.2	0	33	33	9.88	24	72.7	20	4	0	0	4	0.000	0.0
湯梨浜町	406	287	693	34.1	18	12	30	4.33	29	96.7	19	9	0	1	10	0.144	3.3
三朝町	254	0	254	39.9	24	0	24	9.45	21	87.5	15	6	0	0	6	0.000	0.0
北栄町	561	85	646	31.2	43	6	49	7.59	48	98.0	30	15	0	3	18	0.464	6.1
琴浦町	908	31	939	24.3	66	2	68	7.24	62	91.2	39	18	1	4	23	0.426	5.9
南部町	162	130	292	22.5	10	5	15	5.14	13	86.7	6	5	0	2	7	0.685	13.3
伯耆町	372	116	488	11.4	28	12	40	8.20	35	87.5	21	14	0	0	14	0.000	0.0
日吉津村	67	49	116	13.4	3	6	9	7.76	7	77.8	1	4	0	2	6	1.724	22.2
大山町	540	139	679	22.7	41	26	67	9.87	55	82.1	14	35	1	5	41	0.736	7.5
日南町	204	0	204	15.2	14	0	14	6.86	14	100.0	9	5	0	0	5	0.000	0.0
日野町	629	21	650	25.6	10	2	12	7.45	11	91.7	2	9	0	0	9	0.000	0.0
江府町	502	161	663	32.1	0	22	22	13.66	18	81.8	13	5	0	0	5	0.000	0.0
合計	109,634	6,871	13,956	12.7	671	839	1,510	10.82	1,370	90.7	745	545	7	73	625	0.523	4.8
東部	46,408	2,470	5,220	11.2	335	422	757	14.50	682	90.1	438	216	4	24	244	0.460	3.2
中部	15,721	2,470	3,164	20.1	179	54	233	7.36	218	93.6	122	83	1	12	96	0.379	5.2
西部	47,505	3,427	5,572	11.7	157	363	520	9.33	470	90.4	185	246	2	37	285	0.664	7.1

(3) 検診方法別

区 分	実 施 市 町 村 数	受 診 者 数 (人)	要 精 検 者 数	要 精 検 率 (%)	精 検 受 診 者 数	精 検 受 診 率 (%)	が ん	が ん 発 見 率 (%)
視触診及びマンモグラフィ	19	12,782	1,478	11.56	1,340	90.7	68	0.532
視触診のみ	8	1,172	31	2.65	29	93.5	5	0.427
マンモグラフィのみ	1	2	1	50	1	100.0	0	0.000
計		13,956	1,510	10.82	1,370	90.7	73	0.523

1) 視触診+マンモグラフィ併用検診

a. 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = j/b
40～44歳	6,846	1,138	16.6	181	957	15.91	21	1.85	138	12.13	22	1.93
45～49歳	8,678	1,014	11.7	155	859	15.29	8	0.79	130	12.82	17	1.68
50～54歳	9,727	1,373	14.1	190	1,183	13.84	14	1.02	155	11.29	21	1.53
55～59歳	12,913	1,789	13.9	201	1,588	11.24	11	0.61	173	9.67	17	0.95
60～64歳	13,198	2,144	16.2	230	1,914	10.73	11	0.51	194	9.05	25	1.17
65～69歳	14,351	2,061	14.4	201	1,860	9.75	9	0.44	166	8.05	26	1.26
70～74歳	14,920	2,034	13.6	210	1,824	10.32	16	0.79	172	8.46	22	1.08
75～79歳	13,411	868	6.5	79	789	9.10	6	0.69	61	7.03	12	1.38
80歳以上	15,590	361	2.3	31	330	8.59	4	1.11	26	7.20	1	0.28
計	109,634	12,782	11.7	1,478	11,304	11.56	100	0.78	1,215	9.51	163	1.28

b. 精密検診結果 (年齢階級別)

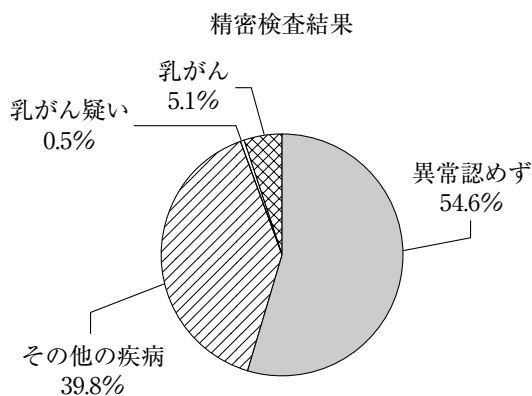
年 齢	精密検査 受診者数 (人) l	精密検査 受診率 (%) m = l/d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) o = n/b	陽性反応 適中度 (%) p = n/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	159	87.8	79	73	1	6	0.527	3.3
45～49歳	140	90.3	60	69	1	10	0.986	6.5
50～54歳	169	88.9	74	89	2	4	0.291	2.1
55～59歳	182	90.5	87	82	1	12	0.671	6.0
60～64歳	213	92.6	128	77	0	8	0.373	3.5
65～69歳	182	90.5	111	56	1	14	0.679	7.0
70～74歳	195	92.9	133	53	1	8	0.393	3.8
75～79歳	73	92.4	48	21	0	4	0.461	5.1
80歳以上	27	87.1	12	13	0	2	0.554	6.5
計	1,340	90.7	732	533	7	68	0.532	4.6

c. 検診機関別（一次検診結果）

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモともによ要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率 (%) e' = d' / a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g' = f' / a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i' = h' / a'
医師 雇上	718	80	638	11.14	1	0.14	22	3.06	57	7.94
保健事業団	6,059	567	5,492	9.36	13	0.21	533	8.80	21	0.35
中国労働衛生協会	115	21	94	18.26	0	0.00	19	16.52	2	1.74
病 院	5,890	810	5,080	13.75	86	1.46	641	10.88	83	1.41
診 療 所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	12,782	1,478	11,304	11.56	100	0.78	1,215	9.51	163	1.28

d. 検診機関別（精密検査結果）

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) j'	精密検査受診率 (%) k' = j' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率 (%) m' = l' / a'	陽性反応 適中度 (%) n' = l' / b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん 疑い	乳がん l'		
医師 雇上	69	86.3	44	21	0	4	0.557	5.0
保健事業団	529	93.3	319	188	4	18	0.297	3.2
中国労働衛生協会	20	95.2	8	12	0	0	0.000	0.0
病 院	722	89.1	361	312	3	46	0.781	5.7
診 療 所	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,340	90.7	732	533	7	68	0.532	4.6



e. 平成18年度乳がん検診受診状況（視触診＋マンモグラフィ併用）

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員								
	出張 検診 B	施設 検診 C	計 D = B + C	受診率 (%) E = D / A	出張 検診 F	施設 検診 G	計 H = F + G	要精検率 (%) I = H / D	精 受診者数 J	精検受診 率 (%) K = J / H	異 常 認めず L	その 他の 疾病 M	がん 疑い N	が ん O	人 見 者 P = M + N + O	がん 発見 率 (%) Q = O / D	陽性反応 適中度 (%) R = O / H
鳥取市	1,063	2,275	3,338	9.0	152	377	529	15.85	483	91.3	302	159	2	20	181	0.599	3.8
米子市	635	1,976	2,611	9.3	50	267	317	12.14	295	93.1	109	162	1	23	186	0.881	7.3
倉吉市	341	279	620	8.7	28	30	58	9.35	54	93.1	19	31	0	4	35	0.645	6.9
境港市	25	0	25	0.3	1	0	1	4.00	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0
岩美町	505	128	633	32.0	57	10	67	10.58	56	83.6	36	16	0	4	20	0.632	6.0
八頭町	686	13	699	16.1	100	2	102	14.59	95	93.1	62	31	2	0	33	0.000	0.0
若桜町	213	0	213	20.6	23	0	23	10.80	21	91.3	15	6	0	0	6	0.000	0.0
智頭町	0	333	333	16.2	0	33	33	9.91	24	72.7	20	4	0	0	4	0.000	0.0
湯梨浜町	268	158	426	21.0	18	11	29	6.81	28	96.6	19	8	0	1	9	0.235	3.4
三朝町	637	0	254	39.9	24	0	24	9.45	21	87.5	15	6	0	0	6	0.000	0.0
北栄町	2,072	561	644	31.1	43	5	48	7.45	47	97.9	30	14	0	3	17	0.466	6.3
琴浦町	908	29	937	24.2	66	2	68	7.26	62	91.2	39	18	1	4	23	0.427	5.9
南部町	1,299	130	292	22.5	10	5	15	5.14	13	86.7	6	5	0	2	7	0.685	13.3
伯耆町	4,283	372	488	11.4	28	12	40	8.20	35	87.5	21	14	0	0	14	0.000	0.0
日吉津村	867	49	116	13.4	3	6	9	7.76	7	77.8	1	4	0	2	6	1.724	22.2
大山町	2,988	488	627	21.0	41	26	67	10.69	55	82.1	14	35	1	5	41	0.797	7.5
日南町	1,339	204	204	15.2	14	0	14	6.86	14	100.0	9	5	0	0	5	0.000	0.0
日野町	629	140	161	25.6	10	2	12	7.45	11	91.7	2	9	0	0	9	0.000	0.0
江府町	502	0	161	32.1	0	22	22	13.66	18	81.8	13	5	0	0	5	0.000	0.0
合計	109,634	6,892	12,782	11.7	668	810	1,478	11.56	1,340	90.7	732	533	7	68	608	0.532	4.6
東部	46,408	2,467	5,216	11.2	332	422	754	14.46	679	90.1	435	216	4	24	244	0.460	3.2
中部	15,721	2,332	2,881	18.3	179	48	227	7.88	212	93.4	122	77	1	12	90	0.417	5.3
西部	47,505	2,093	4,685	9.9	157	340	497	10.61	449	90.3	175	240	2	32	274	0.683	6.4

2) 視触診のみ

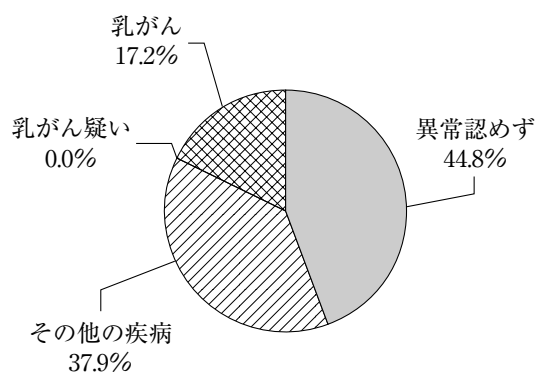
a. 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一 次 検 診 受 診 者 数 b	受診率(%) c = b/a	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) e = d/b
				要精検者数 d	異常認めず	
40～44歳	6,846	67	1.0	4	63	5.97
45～49歳	8,678	72	0.8	5	67	6.94
50～54歳	9,727	60	0.6	1	59	1.67
55～59歳	12,913	104	0.8	4	100	3.85
60～64歳	13,198	138	1.0	2	136	1.45
65～69歳	14,351	155	1.1	5	150	3.23
70～74歳	14,920	276	1.8	6	270	2.17
75～79歳	13,411	215	1.6	0	215	0.00
80歳以上	15,590	85	0.5	4	81	4.71
計	109,634	1,172	1.1	31	1,141	2.65

b. 精密検診結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 (人) f	精密検査 受診率(%) g = f/d	精 密 検 査 結 果				乳 がん 発見率(%) i = h/b	陽 性 反 応 適中度(%) j = h/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	3	75.0	0	1	0	2	2.985	50.0
45～49歳	5	100.0	1	4	0	0	0.000	0.0
50～54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
55～59歳	4	100.0	2	2	0	0	0.000	0.0
60～64歳	2	100.0	2	0	0	0	0.000	0.0
65～69歳	5	100.0	2	3	0	0	0.000	0.0
70～74歳	6	100.0	4	1	0	1	0.362	16.7
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	4	100.0	2	0	0	2	2.353	50.0
計	29	93.5	13	11	0	5	0.427	16.1

精密検査結果



c. 一次検診結果（検診機関別）

検診機関	一次検診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	異常認めず	
医師雇上	3	3	0	100.0
保健事業団	190	0	190	0.0
中国労働衛生協会	—	—	—	—
病院	533	20	513	3.75
診療所	446	8	438	1.79
計	1,172	31	1,141	2.65

d. 精密検診結果（検診機関別）

検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精密検査結果				乳がん発見率 (%) g' = f'/a'	陽性反応適中度 (%) h' = f'/b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
医師雇上	3	100.0	3	0	0	0	0.000	0.0
保健事業団	0	0.0	0	0	0	0	0.000	0.0
中国労働衛生協会	—	—	—	—	—	—	—	—
病院	18	90.0	7	8	0	3	0.563	15.0
診療所	8	100.0	3	3	0	2	0.448	25.0
計	29	93.5	13	11	0	5	0.427	16.1

e. 平成18年度乳がん検診受診状況（視触診のみ）

市町村名	対象者数 (人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員					
	出張 検診	出張 検診	施設 検診	計	受診率 (%)	出張 検診	施設 検診	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率 (%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有 見者	がん発見 率 (%)	陽性反応 適中度 (%)	
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H	
鳥取市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
米子市	0	11	11	0.04	0	2	2	18.18	2	100.0	0	0	0	2	2	18.182	100.0	
倉吉市	0	12	12	0.17	0	4	4	33.33	4	100.0	0	4	0	0	4	0.000	0.0	
境港市	0	824	824	11.08	0	21	21	2.55	19	90.5	10	6	0	3	9	0.364	14.3	
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
八頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
若桜町	3	0	3	0.29	3	0	3	100.0	3	100.0	3	0	0	0	0	0.000	0.0	
智頭町	0	1	1	0.05	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
湯梨浜町	138	129	267	13.13	0	1	1	0.37	1	100.0	0	1	0	0	1	0.000	0.0	
三朝町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
北栄町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
琴浦町	0	2	2	0.05	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
南部町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
伯耆町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大山町	52	0	52	1.74	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
江府町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	193	979	1,172	1.07	3	28	31	2.65	29	93.5	13	11	0	5	16	0.427	16.1	
東部	3	1	4	0.01	3	0	3	75.00	3	100.0	3	0	0	0	0	0.000	0.0	
中部	138	143	281	1.79	0	5	5	1.78	5	100.0	0	5	0	0	5	0.000	0.0	
西部	52	835	887	1.87	0	23	23	2.59	21	91.3	10	6	0	5	11	0.564	21.7	

(4) 平成18年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 80

確定乳癌 75 (両側 1例)

異常なし1、良性1、経過観察2、肺小細胞癌乳腺転移1

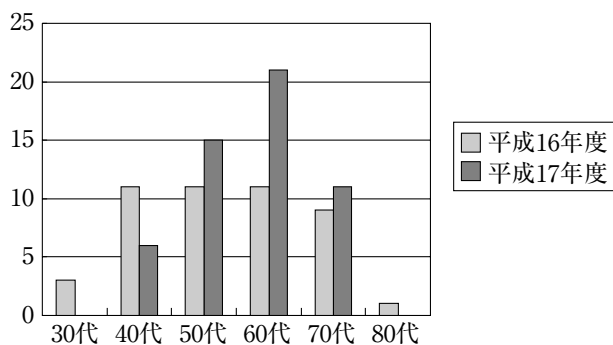
鳥取市22、米子市 23、倉吉市 4、境港市 3

岩美町 4、八頭町 1、湯梨浜町 1、琴浦町 4

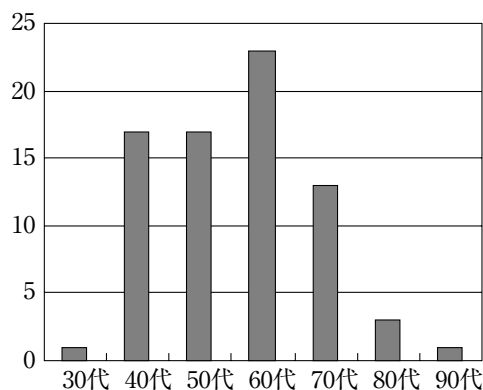
北栄町 3、日吉津村 2、大山町 6、南部町 2

2) 年齢構成 平均年齢 60.5歳

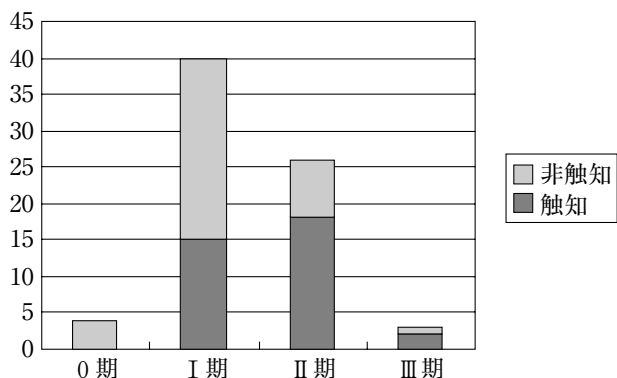
平成16、17年



平成18年



3) 病期分類



一次検診医の診断

触知癌 35 (MMGで所見無し 2例)

非触知癌 (=MMG発見) 38

不明 2

4) 組織型

非浸潤癌 9、浸潤癌 65

	非触知	触知	不明
非浸潤癌	9	0	
浸潤癌	28	35	2

5) 検診歴

初回検診	35例
繰り返し検診	40例

6) 手術術式 不明5 (2例は術前化学療法中)

	乳房温存術	乳房切除術
非浸潤癌	7	2
浸潤癌	36	26
計	43 (61%)	28

腋窩郭清	なし	SLNB	あり
乳房温存術	5	8	30
乳房切除術	1	4	23
計	6	12	53

まとめ

1. 平成18年度検診発見乳癌は75例と大幅に増加し、マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が38例であった。特に40歳代の発見が増加した。
2. 昨年同様マンモグラフィ発見乳癌のほうが有意に早期であった。
3. 非浸潤癌は9例であった。
4. 乳房温存率は昨年に比べ減少した。
5. 術前化学療法、腋窩郭清省略が一部の施設で施行されはじめた。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成18年度から全市町村で1日2個法によるがん検診が実施された。

平成18年度の対象者数（40歳以上の者のうち職場等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は176,794人で、受診者数は52,026人（地域検診：21,257人、施設検診：30,769人）で、受診率は29.4%であった。このうち要精検者数は4,244人（地域検診：1,319人、施設検診：2,925人）、要精検率は8.2%、そのうち、精検受診者数は3,108人、精検受診率は73.2%であった。精検の結果、大腸がん156人、がん発見率は0.30%、陽性反応的中度（がん/要精検者数）は3.7%で、全国集計法（がん/精検受診者数）では5.0%であった。がん疑いは9人発見された。

受診者数、受診率、要精検率は平成17年度とほぼ同様な結果であったが、精検受診率が平成18年度初めて70%を超え、がん発見者数が平成17年度より18人多く見つかっており、過去最高であった。がん発見率、陽性反応的中度は平成17年度に比べ、それぞれ0.03ポイント、0.6ポイント増加した。

要精検率は地域検診6.2%、施設検診9.5%で格差がある。検診機関別の陽性反応的中度は、鳥取県保健事業団4.3%、ファルコ2.6%、中国労働衛生協会5.0%、病院2.2%、診療所3.8%であった。

平成15年度から1日2個法を導入した13市町村は、受診者数41,560人で、受診率30.3%、要精検率8.4%、精検受診率73.6%、がん発見率0.310%、陽性反応的中度は3.7%（全国集計法5.0%）であった。また、平成16年度から1日2個法を導入した5町村は、受診者数3,905人で、受診率27.6%、要精検率6.8%、精検受診率75.0%、がん発見率0.205%、陽性反応的中度は3.0%（全国集計法4.0%）であった。平成17年度から1日2個法を導入した3市町は、受診者数6,076人で、受診率25.0%、要精検率7.7%、精検受診率70.0%、がん発見率0.313%、陽性反応的中度は4.1%（全国集計法5.8%）であった。平成18年度から1日2個法を導入した1町は、受診者数485人で、受診率45.3%、要精検率4.7%、精検受診率60.9%、がんは発見されなかった。

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん156例、がん疑い9例、合計165例について確定調査を行った結果、確定癌159例（地域検診57例、施設検診102例）で、そのうち早期がんは107例で、早期癌率は67.3%で、平成17年度全国集計とほぼ同様な結果であった。

調査の結果は、以下のとおりである。

- (1) 性及び年齢では男女とも70～79歳からがんが多く発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が59.7%、早期癌では「I p」「I sp」「I s」が、進行癌では「2」が大半を占めていた。平成17年度全国平均とほぼ同様な結果であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が28.3%であった。また、大きさが記入していない症例が15例もあった。
- (4) Dukes分類は「A」が75.5%で、組織型分類は「Well」が61.0%、「Mod」が31.4%であった。
- (5) 治療方法は外科手術が67例（42.1%）、内視鏡下手術15例（9.4%）、内視鏡治療は76例（47.8%）であった。内視鏡下手術が少し増えている。
- (6) 逐年検診発見進行大腸癌は15例（東部7例、中部1例、西部7例）であった。

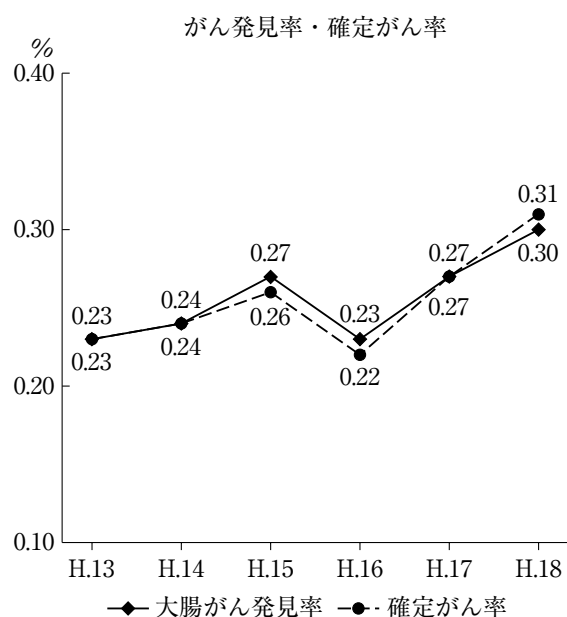
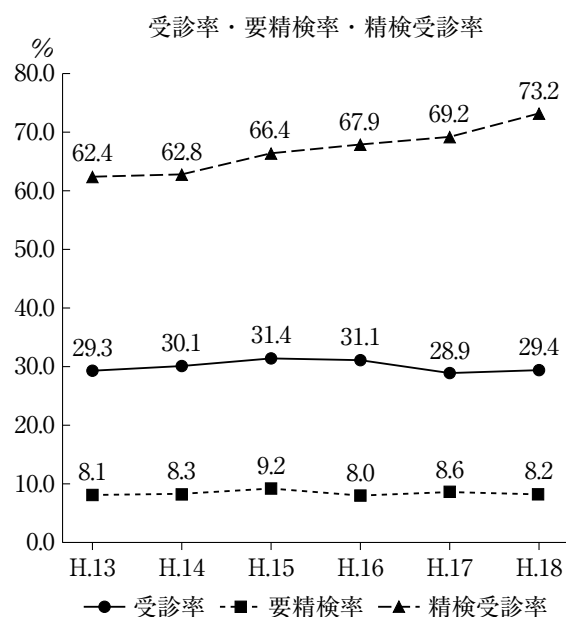
(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	175,103	177,254	179,274	174,300	180,366	176,794
	受 診 者 数(人) B	51,295	53,336	56,218	54,170	52,045	52,026
	受 診 率(%) C = B/A	29.3	30.1	31.4	31.1	28.9	29.4
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	47,141	48,931	51,024	49,818	47,569	47,782
	要 精 検 者 数(人) E	4,154	4,405	5,194	4,352	4,476	4,244
	要 精 検 率(%) F = E/B	8.1	8.3	9.2	8.0	8.6	8.2
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,593	2,767	3,449	2,955	3,097	3,108
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	62.4	62.8	66.4	67.9	69.2	73.2
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	117(7)	126(12)	149(8)	123(8)	138(6)	156(9)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.23	0.24	0.27	0.23	0.27	0.30
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E	2.8	2.9	2.9	2.8	3.1	3.7
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	118	127	147	119	139	159
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.23	0.24	0.26	0.22	0.27	0.31

※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成18年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	3,671	6,237	409	1,094	11.1	17.5	15.2	28	51	381	1,043	6.8	4.7	5.3
45～49歳	4,473	8,097	574	1,396	12.8	17.2	15.7	33	74	541	1,322	5.7	5.3	5.4
50～54歳	6,303	9,009	912	2,095	14.5	23.3	19.6	79	109	833	1,986	8.7	5.2	6.3
55～59歳	8,313	11,900	1,578	3,917	19.0	32.9	27.2	130	235	1,448	3,682	8.2	6.0	6.6
60～64歳	9,406	12,608	2,310	4,491	24.6	35.6	30.9	217	285	2,093	4,206	9.4	6.3	7.4
65～69歳	9,769	13,939	3,528	5,767	36.1	41.4	39.2	331	371	3,197	5,396	9.4	6.4	7.6
70～74歳	10,708	14,910	4,078	6,268	38.1	42.0	40.4	414	459	3,664	5,809	10.2	7.3	8.4
75～79歳	8,882	13,867	3,300	4,849	37.2	35.0	35.8	388	417	2,912	4,432	11.8	8.6	9.9
80歳以上	8,057	16,645	2,222	3,238	27.6	19.5	22.1	271	352	1,951	2,886	12.2	10.9	11.4
計	69,582	107,212	18,911	33,115	27.2	30.9	29.4	1,891	2,353	17,020	30,762	10.0	7.1	8.2
合計	176,794		52,026		29.4			4,244		47,782		8.2		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h/b			j = h/d		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	15	40	53.6	78.4	69.6	7	23	8	16	0	0	0	1	0.000	0.091	0.067	0.0	2.0	1.3
45～49歳	19	52	57.6	70.3	66.4	6	33	13	17	0	0	0	2	0.000	0.143	0.102	0.0	2.7	1.9
50～54歳	47	71	59.5	65.1	62.8	19	43	26	25	0	0	2	3	0.219	0.143	0.166	2.5	2.8	2.7
55～59歳	81	180	62.3	76.6	71.5	26	88	51	83	0	0	4	9	0.253	0.230	0.237	3.1	3.8	3.6
60～64歳	148	220	68.2	77.2	73.3	40	118	101	98	0	0	7	4	0.303	0.089	0.162	3.2	1.4	2.2
65～69歳	254	307	76.7	82.7	79.9	72	136	154	159	2	0	26	12	0.737	0.208	0.409	7.9	3.2	5.4
70～74歳	326	342	78.7	74.5	76.5	82	145	216	185	1	2	27	10	0.662	0.160	0.358	6.5	2.2	4.2
75～79歳	303	300	78.1	71.9	74.9	101	126	186	156	2	1	14	17	0.424	0.351	0.380	3.6	4.1	3.9
80歳以上	176	227	64.9	64.5	64.7	49	107	111	117	0	1	16	2	0.720	0.062	0.330	5.9	0.6	2.9
計	1,369	1,739	72.4	73.9	73.2	402	819	866	856	5	4	96	60	0.508	0.181	0.300	5.1	2.5	3.7
合計	3,108		73.2			1,221		1,722		9		156		0.300			3.7		

3) 検診機関別

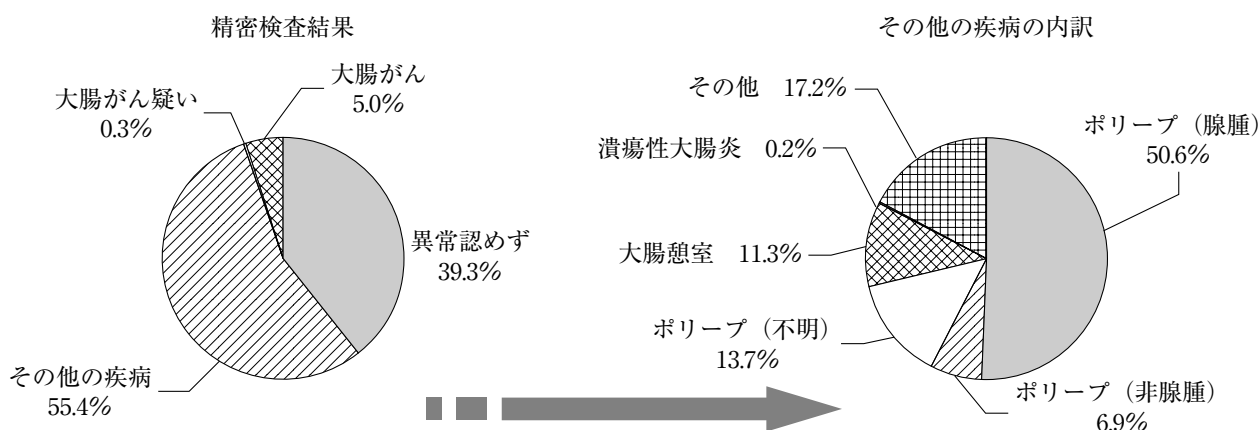
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	7,427	12,126	557	646	6,870	11,480	7.5	5.3	6.2
ファルコ	364	517	50	26	314	491	13.7	5.0	8.6
中国労働衛生協会	366	457	25	15	341	442	6.8	3.3	4.9
地域検診小計	8,157	13,100	632	687	7,525	12,413	7.7	5.2	6.2
病院	2,796	4,871	294	374	2,502	4,497	10.5	7.7	8.7
診療所	7,958	15,144	965	1,292	6,993	13,852	12.1	8.5	9.8
施設検診小計	10,754	20,015	1,259	1,666	9,495	18,349	11.7	8.3	9.5
計	18,911	33,115	1,891	2,353	17,020	30,762	10.0	7.1	8.2
合計	52,026		4,244		47,782		8.2		

b. 精密検査結果

年齢	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / b'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	402	524	72.2	81.1	77.0	127	267	243	234	2	1	30	22	0.404	0.181	0.266	5.4	3.4	4.3
ファルコ	35	22	70.0	84.6	75.0	7	6	26	16	0	0	2	0	0.549	0.000	0.227	4.0	0.0	2.6
中国労働衛生協会	17	11	68.0	73.3	70.0	3	6	12	5	0	0	2	0	0.546	0.000	0.243	8.0	0.0	5.0
地域検診小計	454	557	71.8	81.1	76.6	137	279	281	255	2	1	34	22	0.417	0.168	0.263	5.4	3.2	4.2
病院	204	285	69.4	76.2	73.2	62	137	134	140	0	1	8	7	0.286	0.144	0.196	2.7	1.9	2.2
診療所	711	897	73.7	69.4	71.2	203	403	451	461	3	2	54	31	0.679	0.205	0.368	5.6	2.4	3.8
施設検診小計	915	1,182	72.7	70.9	71.7	265	540	585	601	3	3	62	38	0.577	0.190	0.325	4.9	2.3	3.4
計	1,369	1,739	72.4	73.9	73.2	402	819	866	856	5	4	96	60	0.508	0.181	0.300	5.1	2.5	3.7
合計	3,108		73.2			1,221		1,722		9		156		0.300			3.7		

※ がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上



4) 平成18年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員															
	地域検診		施設検診		計		受診率(%)		地域検診		施設検診		計		要精検率(%)		精検受診率(%)		異認めず		常その疾病		他の疑い		がん発見		陽性反応	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H										
鳥取市	54,000	2,544	12,731	15,275	28.3	148	962	1,110	7.3	851	76.7	341	462	3	45	510	0.295	4.1										
米子市	45,060	881	12,729	13,610	30.2	76	1,339	1,415	10.4	951	67.2	378	530	2	41	573	0.301	2.9										
倉吉市	12,602	1,448	731	2,179	17.3	97	109	206	9.5	153	74.3	55	87	0	11	98	0.505	5.3										
境港市	11,573	0	2,584	2,584	22.3	0	302	302	11.7	267	88.4	90	166	0	11	177	0.426	3.6										
岩美町	2,888	1,210	218	1,428	49.4	94	14	108	7.6	88	81.5	30	53	0	5	58	0.350	4.6										
八頭町	8,090	2,819	54	2,873	35.5	164	2	166	5.8	129	77.7	46	73	0	10	83	0.348	6.0										
若桜町	1,428	503	320	823	57.6	19	15	34	4.1	20	58.8	9	11	0	0	11	0.000	0.0										
智頭町	3,549	726	367	1,093	30.8	41	31	72	6.6	57	79.2	18	35	1	3	39	0.274	4.2										
湯梨浜町	3,405	1,025	241	1,266	37.2	64	59	123	9.7	97	78.9	44	47	0	6	53	0.474	4.9										
三朝町	1,345	723	0	723	53.8	41	0	41	5.7	34	82.9	15	16	0	3	19	0.415	7.3										
北栄町	4,719	2,093	169	2,262	47.9	122	35	157	6.9	96	61.1	53	42	0	1	43	0.044	0.6										
琴浦町	7,008	1,576	59	1,635	23.3	93	10	103	6.3	77	74.8	25	45	0	7	52	0.428	6.8										
南部町	2,481	493	542	1,035	41.7	26	47	73	7.1	51	69.9	15	34	1	1	36	0.097	1.4										
伯耆町	7,864	1,584	0	1,584	20.1	110	0	110	6.9	81	73.6	40	40	0	1	41	0.063	0.9										
日吉津村	1,604	321	0	321	20.0	13	0	13	4.0	7	53.8	3	3	0	1	4	0.312	7.7										
大山町	5,708	1,693	0	1,693	29.7	124	0	124	7.3	89	71.8	39	43	1	6	50	0.354	4.8										
日南町	1,570	484	0	484	30.8	30	0	30	6.2	24	80.0	8	13	0	3	16	0.620	10.0										
日野町	1,071	461	24	485	45.3	23	0	23	4.7	14	60.9	5	8	1	0	9	0.000	0.0										
江府町	829	673	0	673	81.2	34	0	34	5.1	22	64.7	7	14	0	1	15	0.149	2.9										
合計	176,794	21,257	30,769	52,026	29.4	1,319	2,925	4,244	8.2	3,108	73.2	1,221	1,722	9	156	1,887	0.300	3.7										
東部	69,955	7,802	13,690	21,492	30.7	466	1,024	1,490	6.9	1,145	76.8	444	634	4	63	701	0.293	4.2										
中部	29,079	6,865	1,200	8,065	27.7	417	213	630	7.8	457	72.5	192	237	0	28	265	0.347	4.4										
西部	77,760	6,590	15,879	22,469	28.9	436	1,688	2,124	9.5	1,506	70.9	585	851	5	65	921	0.289	3.1										

5) 1日2個法実施市町村の大腸がん検診実績

a. 平成15年度から導入した市町村（東部：鳥取・岩美・八頭・若桜、中部：湯梨浜・三朝、西部：米子・境港・南部・日吉津・大山・日南・江府）

地 区	受 診 者 数 (人) A	受診率 (%)	要精検 者 数 B	要 精 率 率 (%) C = B/A	精検受 診 者 数 D	精検受 診 率 (%) E = D/B	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) G = F/A	陽性反応 適 中 度 (%) H = F/B
							異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	が ん 疑 い	が ん F		
東 部 (4市町)	19,974	30.6	1,395	7.0	1,074	77.0	423	588	3	60	0.300	4.3
中 部 (2町)	1,667	38.2	142	8.5	112	78.9	50	55	0	7	0.420	4.9
西 部 (7市町村)	19,919	29.4	1,954	9.8	1,384	70.8	530	788	4	62	0.311	3.2
H18合計 (1日2個法)	41,560	30.3	3,491	8.4	2,570	73.6	1,003	1,431	7	129	0.310	3.7
H17合計 (1日2個法)	41,347	29.6	3,655	8.8	2,536	69.4	946	1,469	6	115	0.278	3.1
H16合計 (1日2個法)	43,042	31.5	3,498	8.1	2,369	67.7	904	1,355	6	104	0.242	3.0
H15合計 (1日2個法)	44,104	31.5	4,222	9.6	2,762	65.4	1,154	1,481	7	120	0.272	2.8
H14合計 (2日法)	41,526	30.1	3,535	8.5	2,172	61.4	906	1,158	8	100	0.241	2.8

※1 旧市町村で平成15年度は2日法であったものは除いている。

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

b. 平成16年度から導入した市町村（東部：旧佐治村・智頭町、中部：旧東郷町、西部：伯耆町、旧大山町）

地 区	受 診 者 数 (人) A'	受診率 (%)	要精検 者 数 B'	要 精 率 率 (%) C' = B'/A'	精検受 診 者 数 D'	精検受 診 率 (%) E' = D'/B'	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) G' = F'/A'	陽性反応 適 中 度 (%) H' = F'/B'
							異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	が ん 疑 い	が ん F'		
東 部 (旧佐治、智頭)	1,518	32.1	95	6.3	71	74.7	21	46	1	3	0.198	3.2
中 部 (旧東郷)	322	82.4	22	6.8	19	86.4	9	8	0	2	0.621	9.1
西 部 (伯耆、旧大山)	2,065	22.9	147	7.1	108	73.5	50	55	0	3	0.145	2.0
H18合計 (1日2個法)	3,905	27.6	264	6.8	198	75.0	80	109	1	8	0.205	3.0
H17合計 (1日2個法)	3,997	28.9	301	7.5	218	72.4	91	118	0	9	0.225	3.0
H16合計 (1日2個法)	4,107	44.1	277	6.7	192	69.3	84	102	1	5	0.122	1.8
H15合計 (2日法)	4,512	41.9	346	7.7	242	69.9	107	125	1	9	0.199	2.6
H14合計 (2日法)	4,463	38.1	318	7.1	212	66.7	80	126	1	5	0.112	1.6

c. 平成17年度から導入した市町村（東部：なし、中部：倉吉市・北栄町・琴浦町、西部：なし）

地 区	受 診 者 数 (人) a	受診率 (%)	要精検 者 数 b	要 精 率 率 (%) c = b/a	精検受 診 者 数 d	精検受 診 率 (%) e = d/b	精密検査結果内訳				がん発見率 (%) g = f/a	陽性反応 適 中 度 (%) h = f/b
							異 常 認 め ず	そ の 他 の 疾 病	が ん 疑 い	が ん f		
東 部 (0市町)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中 部 (3市町)	6,076	25.0	466	7.7	326	70.0	133	174	0	19	0.313	4.1
西 部 (0市町村)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H18合計 (1日2個法)	6,076	25.0	466	7.7	326	70.0	133	174	0	19	0.313	4.1
H17合計 (1日2個法)	6,195	24.1	493	8.0	326	66.1	144	169	0	13	0.210	2.6
H16合計 (2日法)	6,528	23.5	540	8.3	370	68.5	149	207	1	13	0.199	2.4
H15合計 (2日法)	7,027	26.1	582	8.3	417	71.6	187	211	0	19	0.270	3.3
H14合計 (2日法)	6,789	25.8	505	7.4	353	69.9	159	174	3	17	0.250	3.4

d. 平成18年度から導入した市町村（東部：なし、中部：なし、西部：日野町）

地 区	受 診 者 数 (人) a'	受 診 率 (%)	要 精 検 者 数 b'	要 精 率 (%) c' = b' / a'	精 検 受 診 者 数 d'	精 検 受 診 率 (%) e' = d' / b'	精密検査結果内訳				がん 発 見 率 (%) g' = f' / a'	陽 性 反 応 適 中 度 (%) h' = f' / b
							異 常 認 め	そ の 疾 病	が ん 疑 い	が ん		
東 部 (0市町)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
中 部 (0市町)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
西 部 (日野町)	485	45.3	23	4.7	14	60.9	5	8	1	0	0.000	0.0
H18合計 (1日2個法)	485	45.3	23	4.7	14	60.9	5	8	1	0	0.000	0.0
H17合計 (2日法)	506	40.2	27	5.3	17	63.0	7	9	0	1	0.198	3.7
H16合計 (2日法)	493	21.2	37	7.5	24	64.9	15	8	0	1	0.203	2.7
H15合計 (2日法)	575	40.0	44	7.7	28	63.6	16	11	0	1	0.174	2.3
H14合計 (2日法)	558	40.6	47	8.4	30	63.8	10	16	0	4	0.717	8.5

(3) 平成18年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地 域 検 診				施 設 検 診				計			総 計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報 告 癌	21	22	16	59	46	6	54	106	67	28	70	165
確 定 癌	21	21	15	57	44	6	52	102	65	27	67	159
腺 腫	0	0	1	1	2	0	2	4	2	0	3	5
そ の 他	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1

表2 性及び年齢

年 齢	40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計	
地 域	男	0	0	0	2	2	12	11	6	2	35
	女	0	2	0	3	3	5	1	6	2	22
	計	0	2	0	5	5	17	12	12	4	57
施 設	男	0	0	2	2	5	14	16	10	13	62
	女	1	0	3	6	1	6	12	11	0	40
	計	1	0	5	8	6	20	28	21	13	102
計	男	0	0	2	4	7	26	27	16	15	97
	女	1	2	3	9	4	11	13	17	2	62
総 計	1	2	5	13	11	37	40	33	17	159	

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	10	8	2	20	9	1	15	25	45(28.3)
S	5	6	6	17	16	1	16	33	50(31.4)
D	2	2	1	5	2	0	2	4	9(5.7)
T	1	1	2	4	2	2	8	12	16(10.1)
A	3	2	4	9	11	2	10	23	32(20.1)
C	0	1	0	1	4	0	1	5	6(3.8)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	1	0	1	0	0	0	0	1(0.6)
計	21	21	15	57	44	6	52	102	159

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域				施設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	5	7	4	16	11	3	15	29	45(28.3)
11～20	7	6	6	19	12	1	8	21	40(25.2)
21～50	7	4	2	13	17	1	15	33	46(28.9)
51～	2	1	1	4	1	1	7	9	13(8.2)
不明	0	3	2	5	3	0	7	10	15(9.4)
計	21	21	15	57	44	6	52	102	159

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	42	65	107(67.3)
1	1	8	9(5.7)
2	13	27	40(25.2)
3	1	1	2(1.3)
4	0	0	0
5	0	1	1(0.6)
不明	0	0	0
計	57	102	159

表6 0型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	6	17	23(21.5)
I sp	16	20	36(33.6)
I s	5	8	13(12.2)
II a	8	9	17(15.9)
II a + II c	5	6	11(10.3)
II b	0	0	0
II c	0	5	5(4.7)
III	1	0	1(0.9)
その他	0	0	0
不明	1	0	1(0.9)
計	42	65	107

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	11	13	9	18	1	23	75(47.2)
sm	2	4	3	10	3	9	31(19.5)
不明	0	0	0	1	0	0	1(0.6)
小計	13	17	12	29	4	32	107(67.3)
mp	3	1	0	3	1	4	12(7.6)
ss	5	2	2	7	1	15	32(20.1)
se	0	1	1	4	0	1	7(4.4)
si	0	0	0	1	0	0	1(0.6)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	21	21	15	44	6	52	159

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	13	18	12	33	6	38	120(75.5)
B	4	0	0	5	0	4	13(8.2)
C	4	3	3	5	0	7	22(13.8)
D	0	0	0	1	0	3	4(2.5)
不明	0	0	0	0	0	0	0
計	21	21	15	44	6	52	159

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	14	13	10	30	3	27	97(61.0)
Mod	6	6	4	10	2	22	50(31.4)
Por	1	0	0	1	0	1	3(1.9)
Muc	0	0	0	1	0	0	1(0.6)
その他	0	0	1	0	1	0	2(1.3)
不明	0	2	0	2	0	2	6(3.8)
計	21	21	15	44	6	52	159

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	7	7	4	18	4	27	67(42.1)
内視鏡下手術	4	0	1	7	1	2	15(9.4)
内視鏡治療	10	14	10	19	1	22	76(47.8)
その他不明	0	0	0	0	0	1	1(0.6)
計	21	21	15	44	6	52	159

表11 平成18年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果			
												検診方式	便潜血	精密結果	
地域 検診	東部	1	69	男性	上行結腸	18mm	mp	2	Well	++	II	地域検診	-	・	-
		2	68	男性	直腸	40mm	mp	2	Mod	++	I	地域検診	+	・	+
	中部	3	69	男性	S状結腸	14mm	se(a2)	2	Mod	++	III a	施設検診	+	・	-
	西部	4	81	男性	上行結腸	56mm	ss(a1)	2	Sig	++	III a	地域検診	-	・	-
		5	77	女性	上行結腸	50mm	se(a2)	3	Mod	-+	IV	地域検診	-	・	-
施設 検診	東部	6	65	女性	上行結腸	35mm	se(a1)	2	Mod	++	III a	地域検診	-	・	-
		7	82	男性	S状結腸	45mm	ss(a1)	2	Well	++	II	施設検診	-	・	-
		8	65	男性	直腸	27mm	mp	2	Mod	++	I	施設検診	-	・	-
		9	79	男性	S状結腸	38mm	ss(a1)	2	Well	++	II	施設検診	-	・	-
		10	81	男性	直腸	25mm	ss(a1)	1	Well	++	II	施設検診	-	・	-
	西部	11	74	女性	直腸	35mm	ss(a1)	2	Well	+ -	IV	施設検診	-	・	-
		12	78	女性	S状結腸	22mm	ss(a1)	2	Mod	++	II	施設検診	+	・	-
		13	75	女性	横行結腸	50mm	ss(a1)	2	Mod	++	III a	施設検診	-	・	-
		14	79	男性	S状結腸	16mm	mp	1	Mod	++	I	施設検診	-	・	-
		15	78	男性	直腸	10mm	mp	1	不明	++	I	施設検診	-	・	+

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+ 節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	H14—と同様

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成18年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査

平成18年度は16市町村で実施し、対象者数43,483人のうち、受診者数は7,702人で受診率は17.7%であった。要精検者数はHBs抗原のみ陽性者158人、HCV抗体のみ陽性者60人の計218人、受診者数の2.83%であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は2.1%、HCV抗体陽性率は0.8%であった。また、要精検者218人のうち精検受診者は114人、精検受診率は52.3%であった。精検受診者114人のうち、肝臓がん2人が発見され、がん発見率は0.03%であった。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。未実施の4町については、定期検査事業を取り組んで頂くよう引き続き要望を行っていくこととなった。

区 分	健康指導 対象者	定期検査 受診者数	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,310	568	101 (17.8)	6 (1.1)	4 (0.7)	1 (0.2)
C型肝炎ウイルス陽性者	1,011	585	298 (50.9)	17 (2.9)	16 (2.7)	8 (1.4)

3) 平成7年度から平成18年度の12年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数は101,703人、推計受診率は52.9%であり、

そのうちHBs抗原陽性者は2,556人（2.51%）、HCV抗体陽性者は3,462人（3.40%）であった。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

- (1) 平成18年度肝炎ウイルス検査からは肝臓癌が2名発見された。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、がん及びがん疑いの者が28名発見され、そのうち9名は過去の検診、定期検査で既にごんと診断されていた。残り19名の確定調査を行った結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が2名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が12名であった。肝臓がん検診から発見される癌は大きいものが見つかるが、定期検査から発見されている癌は35mm以下の比較的に小さいものが多く、定期検査フォローの効果が現れている。
- (2) 平成7年～17年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、19例が確定癌であり、そのうち16例は死亡、生存中の3例のうち、1例は10年1カ月後に再発した。また、平成10～17年度定期検査確定がんが58例で、そのうち29例（他病死を含む）が死亡、29例は生存中である。

(1) 平成18年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢階級	一次検診 受診者数(人) a		一次検診結果						HBs抗原陽性率(%)			HCV抗体陽性率(%)		
			異常なし		HBs抗原 のみ陽性 b		HCV抗体 のみ陽性 c		d = b/a			e = c/a		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	112	353	108	348	3	3	1	2	2.7	0.8	1.3	0.9	0.6	0.6
45～49歳	116	296	110	289	4	7	2	0	3.4	2.4	2.7	1.7	0.0	0.5
50～54歳	164	424	159	404	5	16	0	4	3.0	3.8	3.6	0.0	0.9	0.7
55～59歳	257	589	250	574	6	15	1	0	2.3	2.5	2.5	0.4	0.0	0.1
60～64歳	441	669	420	649	13	14	8	6	2.9	2.1	2.4	1.8	0.9	1.3
65～69歳	513	696	494	680	14	11	5	5	2.7	1.6	2.1	1.0	0.7	0.8
70～74歳	559	876	542	849	11	17	6	10	2.0	1.9	2.0	1.1	1.1	1.1
75～79歳	377	563	367	558	5	5	5	0	1.3	0.9	1.1	1.3	0.0	0.5
80歳以上	215	482	210	473	5	4	0	5	2.3	0.8	1.3	0.0	1.0	0.7
計	2,754	4,948	2,660	4,824	66	92	28	32	2.4	1.9	2.1	1.0	0.6	0.8
合計	7,702		7,484		158		60		2.1			0.8		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査者 受診(人)		精密検査結果												結 果		肝臓がん 発見率 (%) g = f / a			
		健康指導対象者		脂肪肝				慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病			その他		
		無症候性キヤリア		脂 肪		慢 性		肝 炎		肝 硬 変		肝 臓 がん		肝 臓 がん		其 他			其 他		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		男	女	男
40~44歳	B型陽性	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	全 体	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
45~49歳	B型陽性	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	3	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50~54歳	B型陽性	2	8	2	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	C型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	2	10	2	6	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
55~59歳	B型陽性	2	12	1	8	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	C型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	3	12	2	8	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
60~64歳	B型陽性	6	8	5	6	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	7	11	6	9	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
65~69歳	B型陽性	8	7	6	4	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	C型陽性	1	4	0	0	1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	9	11	6	4	0	2	2	4	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0
70~74歳	B型陽性	7	11	4	8	1	1	2	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	6	0	3	0	0	2	3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	9	17	4	11	1	1	4	5	0	0	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0
75~79歳	B型陽性	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	全 体	5	2	3	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
80歳以上	B型陽性	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	3	4	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	B型陽性	34	52	25	37	1	3	7	6	0	0	7	6	0	0	0	0	0	0	1	3
	C型陽性	9	19	4	10	0	1	4	6	0	0	4	6	0	0	1	0	0	0	1	2
	全 体	43	71	29	47	1	4	11	12	0	0	11	12	0	0	1	1	0	0	2	5
合 計	B型陽性	86		62		4		13		0		0		0		1		2		4	
	C型陽性	28		14		1		10		0		0		0		1		0		2	
	全 体	114		76		5		23		0		0		0		2		2		6	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認めた者を指す。

※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

3) 検診機関別

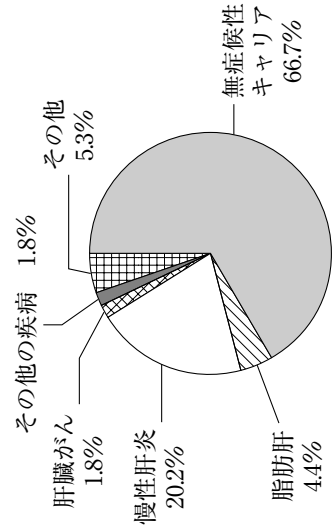
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診 受診者数(人)		一 次 検 診 結 果						HBs抗原陽性率 (%)			HCV抗体陽性率 (%)		
			異常認なし		HBs抗原 のみ陽性 b'		HCV抗体 のみ陽性 c'		d' = b' / a'			e' = c' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
直 営	3	11	2	10	1	1	0	0	33.3	9.1	14.3	0.0	0.0	0.0
保 健 事 業 団	333	460	322	452	7	6	4	2	2.1	1.3	1.6	1.2	0.4	0.8
中国労働衛生協会	27	51	26	51	1	0	0	0	3.7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
病 院	247	392	237	376	7	12	3	4	2.8	3.1	3.0	1.2	1.0	1.1
診 療 所	2,144	4,034	2,073	3,935	50	73	21	26	2.3	1.8	2.0	1.0	0.6	0.8
計	2,754	4,948	2,660	4,824	66	92	28	32	2.4	1.9	2.1	1.0	0.6	0.8
合 計	7,702		7,484		158		60		2.1			0.8		

b) 精密検査結果

一 次 機 関	区 分	精密検査者 診 受 (人)		精密検査結果												肝臓がん 発見率(%) g' = f' / a'			
		男	女	健康指導対象者						診断名						その他		男	女
				脂肪肝		慢性肝炎		アルコール性肝障害		肝臓がん		その他の疾病		男	女				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
直 管	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保 事 業 団	B型陽性	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中 国 労 働 衛 生 協 会	B型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
病 院	B型陽性	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	6	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
診 療 所	B型陽性	27	43	19	33	1	3	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	6	15	2	9	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	33	58	21	42	1	3	9	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	B型陽性	34	52	25	37	1	3	7	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	9	19	4	10	0	1	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	43	71	29	47	1	4	11	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	B型陽性	86	114	62	76	4	5	13	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	28	28	14	14	1	1	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全 体	114	142	76	90	5	6	23	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

精密検査結果 (肝炎ウイルス検査)



※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

4) 平成18年度基本健康診査における肝炎ウイルス検査実施状況

実施市町村数 = 16 未実施市町村数 = 3

市町村名	対象者数(人)		受診者数			陽性者数			精密検査結果				人員							
	A	B	集団検診	医療機関	計	受診率(%)	HBs抗原のみ陽性	HCV抗体のみ陽性	HBs抗原HCV抗体ともに陽性	HCV抗体陽性率(%)	HBs抗原陽性率(%)	HCV抗体陽性率(%)	精受診者数	精受診率(%)	無症候性キャリア	その他の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見率(%)
						$E = D/A$	F	G	H	$J = (G+H)/D$	$I = (F+H)/D$	$J = (G+H)/D$	K	$L = K/(F+G+H)$	M	N	O	P	$Q = N+O+P$	$R = P/D$
鳥取市	15,561	70	771	841	5.4	19	4	0	2.3	0.5	16	69.6	8	7	0	0	1	8	0.119	
米子市	10,429	0	4,836	4,836	46.4	98	38	0	2.0	0.8	63	46.3	43	19	0	0	1	20	0.021	
倉吉市	3,226	83	0	83	2.6	0	1	0	0.0	1.2	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
境港市	1,441	0	669	669	46.4	12	8	0	1.8	1.2	15	75.0	14	1	0	0	1	1	0.000	
岩美町	354	5	0	5	1.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
八頭町	1,675	200	0	200	11.9	3	3	0	1.5	1.5	3	50.0	1	2	0	0	0	2	0.000	
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	1,265	30	263	293	23.2	8	3	0	2.7	1.0	10	90.9	7	3	0	0	0	3	0.000	
三朝町	176	84	0	84	47.7	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
北栄町	280	35	173	208	74.3	3	1	0	1.4	0.5	4	100.0	0	4	0	0	0	4	0.000	
琴浦町	676	179	60	239	35.4	9	2	0	3.8	0.8	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
南部町	327	28	27	55	16.8	2	0	0	3.6	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
伯耆町	5,456	61	0	61	1.1	1	0	0	1.6	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
日吉津村	25	9	0	9	36.0	2	0	0	22.2	0.0	2	100.0	2	0	0	0	0	0	0.000	
大山町	1,399	22	18	40	2.9	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	1,071	3	0	3	0.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0.000	
江府町	122	76	0	76	62.3	1	0	0	1.3	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0.000	
合計	43,483	885	6,817	7,702	17.7	158	60	0	2.1	0.8	114	52.3	76	36	0	0	2	38	0.026	
東部	17,590	275	771	1,046	5.9	22	7	0	2.1	0.7	19	65.5	9	9	0	0	1	10	0.096	
中部	5,623	411	496	907	16.1	20	7	0	2.2	0.8	14	51.9	7	7	0	0	0	7	0.000	
西部	20,270	199	5,550	5,749	28.4	116	46	0	2.0	0.8	81	50.0	60	20	0	0	1	21	0.017	

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上。

(2) 平成7～18年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成18年度B型肝炎ウイルス陽性者年代別定期検査結果報告

年齢	健康指導対象者 (平成18年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成19年10月31日現在の実人員)		定期検査結果																					
	男	女	男	女	健康指導対象者診断名				健康指導対象者診断名				健康指導対象者診断名													
					脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん		その他の疾病							
																	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	16	24	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45～49歳	34	53	8	11	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	49	79	7	33	3	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	63	138	8	62	2	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	66	132	20	46	1	10	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	75	123	19	48	1	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	82	134	31	75	3	14	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	47	81	16	49	1	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	33	81	18	35	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	465	845	120	387	8	65	4	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計 (比率%)	1,310	568 (100)	420 (73.9)	101 (17.8)	24 (4.2)	101 (17.8)	6 (1.1)	2 (0.4)	2 (0.4)	2 (0.4)	2 (0.4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
												1 (0.2)	4 (0.7)	6 (1.1)	4 (0.7)	3 (0.5)	1 (0.2)	6 (1.1)	4 (0.7)	6 (1.1)	4 (0.7)	3 (0.5)	1 (0.2)	6 (1.1)	4 (0.7)	4 (0.7)

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

2) 平成18年度C型肝炎ウイルス陽性者年代別定期検査結果報告

年齢	健康指導対象者 (平成18年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成19年10月31日現在の実人員)		定期検査結果																						
	男	女	男	女	健康指導対象者診断名				健康指導対象者診断名				健康指導対象者診断名														
					脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アルコール性肝障害	肝臓がん		その他の疾病								
																	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
40～44歳	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	4	9	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	15	4	3	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	13	45	1	24	1	14	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
60～64歳	16	61	3	27	0	10	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
65～69歳	41	105	5	55	2	33	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	77	161	8	103	1	59	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	69	145	14	101	0	57	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80歳以上	93	152	23	99	0	40	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	329	682	58	417	4	216	5	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
合計 (比率%)	1,011	585 (100)	218 (37.3)	298 (50.9)	8 (1.4)	298 (50.9)	17 (2.9)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13 (2.2)
												8 (1.4)	16 (2.7)	13 (2.2)	16 (2.7)	9 (1.5)	3 (0.5)	8 (1.4)	16 (2.7)	13 (2.2)	16 (2.7)	9 (1.5)	3 (0.5)	8 (1.4)	16 (2.7)	6 (1.0)	

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(3) 平成7～18年度年代別肝臓がん検診結果

年齢階級	一次検診 受診者数 (人) a		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
			陽性者数 b		陽性率 (%) c = b/a			陽性者数 d		陽性率 (%) e = d/a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	2,195	4,912	90	139	4.10	2.83	3.22	34	46	1.55	0.94	1.13
45～49歳	2,265	5,197	113	188	4.99	3.62	4.03	34	92	1.50	1.77	1.69
50～54歳	2,386	6,374	118	226	4.95	3.55	3.93	33	153	1.38	2.40	2.12
55～59歳	2,833	7,900	86	242	3.04	3.06	3.06	68	244	2.40	3.09	2.91
60～64歳	5,719	11,444	168	242	2.94	2.11	2.39	183	455	3.20	3.98	3.72
65～69歳	7,230	11,973	191	237	2.64	1.98	2.23	282	499	3.90	4.17	4.07
70～74歳	6,590	10,345	122	179	1.85	1.73	1.78	292	434	4.43	4.20	4.29
75～79歳	3,168	5,273	58	74	1.83	1.40	1.56	145	220	4.58	4.17	4.32
80歳以上	2,177	3,722	25	58	1.15	1.56	1.41	106	142	4.87	3.82	4.20
計	34,563	67,140	971	1,585	2.81	2.36	2.51	1,177	2,285	3.41	3.40	3.40
合計	101,703		2,556		2.51			3,462		3.40		

(6) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成18年度基本健康診査肝炎ウイルス検査より発見されたがんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP	備考
1	67	女	肝癌								B		切除後経過観察中
2	79	男	肝癌	T/R		単発	S8	20×20	腫瘤	有	C	28.9	

2) 平成18年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	59	女	肝癌	RFA	06.01	単発	S5	13×12	腫瘤	無	B/C	35
2	67	女	肝癌	RFA	04.04	単発	S5	15×15	腫瘤	無	B	4
3	68	男	癌疑い	経過観察中		単発	S6	13×13	腫瘤	無	B	2
4	77	男	肝癌	17年度報告済							B	
5	56	男	RFA	17年度報告済							B	
6	69	男	肝癌	未治療		2個	S5、7	15×15	腫瘤	有	C	147
7	76	女	癌なし								C	183
8	79	男	肝癌	TAE	06.11	多発	両葉	20×20	腫瘤	有	C	54
9	76	男	肝癌	17年度報告済							C	
10	87	女	肝癌	T/R	06.11.15	単発	S4	16×23	腫瘤	無	C	158
11	79	男	肝癌	T/R	06.11.20	単発	S8	30×30	腫瘤	無	C	10
12	80	女	癌なし								C	5
13	68	男	癌なし								C	3
14	82	女	肝癌	不明	06.03.14	単発	S8	35×35			C	14
15	77	男	癌なし								C	15
16	88	女	肝癌	17年度報告済							C	
17	72	女	肝癌	17年度報告済							C	
18	82	女	肝癌	17年度報告済							C	
19	74	男	肝癌	17年度報告済							C	
20	69	男	肝癌	切除	06.09.26	2個	S6、7	22×20	腫瘤	無	C	12
21	72	女	肝癌	TAE	06.05.18	単発	S6	15×15	腫瘤	有	C	79
22	81	女	肝癌	切除	97.03.24	単発	S8		腫瘤	無	C	251
23	80	男	肝癌	T/R	06.08.31	>4個	S8、4	31×27	腫瘤	有	C	42
24	73	女	肝癌	TAE	06.02.21	>4個	S8、5、3	37×31	腫瘤	有	C	28
25	78	女	肝癌	17年度報告済							C	
26	64	男	肝癌	肝癌	未治療	単発	S5	35×35		無	C	14
27	77	男	肝癌	17年度報告済							C	
28	82	女	肝臓	TAE	06.09.06	単発	S1	20×20	腫瘤	有	C	22

3) 平成7年度～平成17年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単 発			腫瘍	有	C	
2	63	男	切除	97. 2. 26	単 発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2 個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単 発	S2	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
5	59	男	TAE	98. 5.	単 発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単 発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単 発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4 個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	> 4 個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単 発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2 個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単 発	S6	10×10	腫瘍	有	B	5か月後再発
13	66	男	切除	00. 9. 27	2 個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単 発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単 発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	> 4 個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単 発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	> 4 個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単 発	S4	15×15	腫瘍	無	C	2年1か月後再発
20	70	女		00. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単 発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単 発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単 発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単 発	S7	10×10	腫瘍	無	C	調査中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単 発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単 発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単 発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	> 4 個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単 発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単 発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単 発	S8	40×40	腫瘍	無	C	無再発生存中
32	75	男	切除	03. 6. 3	単 発	S6	20×20	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 2. 9	2 個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、4年2か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単 発	S8	25×20	腫瘍	有	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単 発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	2年10か月後再発
36	80	男	RFA	04. 8. 3	> 4 個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	1年2か月後再発
37	91	女	NT		> 4 個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	通院中断
38	74	女	TAE		> 4 個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10	単 発	S8	23×23	腫瘍	有	C	11か月後再発
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単 発	S8	30×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単 発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単 発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	予後調査中
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3 個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後
44	68	男	切除	04. 9. 13.	単 発	S6	30×20	腫瘍	有	C	無再発生存中
45	72	女	T/R	04. 10.	2 個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不 明	不明	不明	腫瘍	無	C	2年6か月後肝外転移疑
47	86	女	TAE	不明	不 明	不明	20×20	不明	有	C	予後調査中
48	73	男	切除	00. 3.	単 発	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単 発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	無再発生存中
50	64	男	未治療		単 発	S5	10×10	腫瘍	有	C	生存中
51	73	女	未治療		> 4 個	S278	7×7	腫瘍	有	C	予後調査中
52	75	男	切除	06. 3. 29	単 発	S7/8	43×25	浸潤	無	C	10か月後再発
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単 発	S7	18×18	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
54	75	男	T/R	05. 8.	2 個	S67	25×25	腫瘍	有	C	無再発生存中
55	87	女	未治療		単 発	S2	20×20	腫瘍	有	C	通院中断
56	89	女	T/P	05. 12.	単 発	S2	15×15	腫瘍	無	C	無再発生存中
57	82	女	T/R	05. 10.	単 発	S6	50×50	腫瘍	無	C	再発
58	77	女	切除	04. 11. 7	2 個	S68	20×20	腫瘍	有	C	無再発生存中

4) 平成7年度～平成17年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘤	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘤	無	C	死亡
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘤	有	C	10年1か月後再発
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘤	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘤	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘤	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘤	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘤	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘤	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘤	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘤	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘤	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘤	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘤	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘤	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘤	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘤	有	C	1年1か月後再発
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘤	有	C	無再発生存中

7. 全国がん検診実績との比較

(単位：人 %)

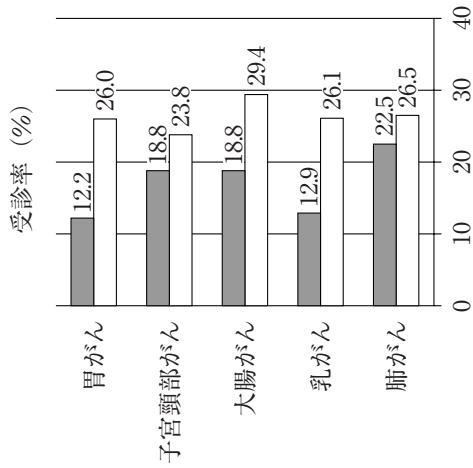
区 分		平成18年度実績 (鳥取県)	平成18年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	174,051	34,639,538	(県) 受診者・がん発見 = 「X線」「内視鏡」の合計値 要精検・精検受診 = 「X線」のみの数値 (国) 報告書記載の数値 (「X線」の数値) 精検受診者 = 「要精検者 - 未受診者」により算定 (受診率順位) 報告書(概要)記載の数値による順位 (以下同じ)
	受診者数 (人)	45,192	4,227,730	
	受診率 (%)	26.0	12.2	
	受診率順位	3位	—	
	要精検者数 (人)	2,162	444,248	
	要精検率 (%)	9.3	10.5	
	精検受診者数 (人)	1,738	333,891 (379,967)	
	精検受診率 (%)	80.4	75.2 (85.5)	
	がんの者 (人)	158	6,604	
がん発見率 (%)	0.35	0.16		
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	133,255	30,821,510	(県) 「頸部」の数値 (「体部」は除く) (国) 「頸部のみ」の数値 隔年検診となったため受診率 () は次により算定されている。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用 全国 $\frac{(3,472,117) + (3,320,265) - (1,008,788)}{(30,821,510)} = 18.8$ 鳥取 $\frac{(24,416) + (24,150) - (16,885)}{(133,249)} = 23.8$
	受診者数 (人)	24,150	3,320,265	
	受診率 (%)	(23.8) 18.1	(18.8)	
	受診率順位	(17) 位	—	
	要精検者数 (人)	96	38,505	
	要精検率 (%)	0.40	1.16	
	精検受診者数 (人)	80	23,782 (29,800)	
	精検受診率 (%)	83.3	61.8 (77.4)	
	がんの者 (人)	16	1,898	
がん発見率 (%)	0.07	0.06		
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	186,314	32,886,604	(県・国) 「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く) ※国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	49,296	7,387,430	
	受診率 (%)	26.5	22.5	
	受診率順位	23位	—	
	要精検者数 (人)	1,780	214,508	
	要精検率 (%)	3.61	2.90	
	精検受診者数 (人)	1,505	154,726 (182,732)	
	精検受診率 (%)	84.6	72.1 (85.2)	
	がんの者 (人)	47	3,625	
がん発見率 (%)	0.10	0.05		

区 分		平成18年度実績 (鳥取県)	平成18年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	109,634	22,766,483	(県・国) 18年度から「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上
	受診者数 (人)	13,956	1,631,811	
	受診率 (%)	(26.1) 12.7	(12.9)	隔年検診となったため受診率 () は次により算定されている。
	受診率順位	(6) 位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数 (人)	1,510	144,470	
	要精検率 (%)	10.82	8.85	※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用)
	精検受診者数 (人)	1,370	116,309 (130,145)	全国 $\frac{(1,562,511) + (1,631,811) - (266,346)}{(22,766,483)} = 12.9$
	精検受診率 (%)	90.7	80.5 (90.1)	
	がんの者 (人)	73	4,529	鳥取 $\frac{(11,366) + (12,782) - (157)}{(91,806)} = 26.1$
	がん発見率 (%)	0.52	0.28	
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	176,794	36,290,693	
	受診者数 (人)	52,026	6,824,088	
	受診率 (%)	29.4	18.8	
	受診率順位	5位	—	
	要精検者数 (人)	4,244	488,980	
	要精検率 (%)	8.16	7.17	
	精検受診者数 (人)	3,108	270,768 (371,551)	
	精検受診率 (%)	73.2	55.4 (76.0)	
	がんの者 (人)	156	11,447	
	がん発見率 (%)	0.30	0.17	

(出典) 鳥取県数値(受診率順位を除く) = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料
 全国数値及び鳥取県の受診率順位 = 地域保健・老人保健事業報告(厚生労働省)

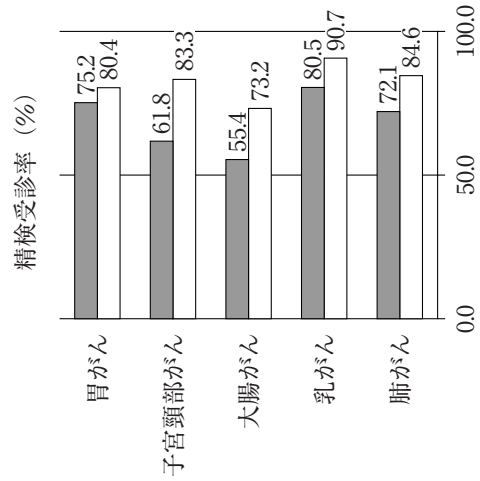
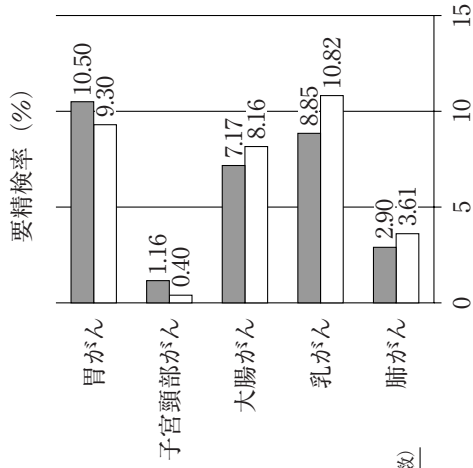
- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・老人報告事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 全国集計の精検受診者数、受診率の()は、精検結果が未把握の者が含まれた数値です。
- 3 肺がん検診の数値は、喀痰検査のみ受診した者の数値を含まない。

老人保健事業健康診査（平成18年度実績）

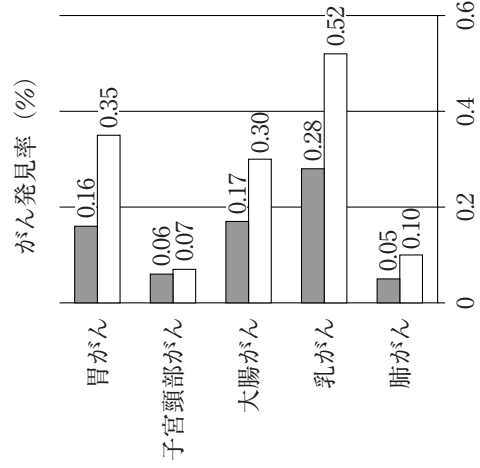


※子宮頸部がん、乳がん検診の受診率は次のとおり計算されている。

（前年度受診者数）+（当該年度受診者数）-（前年度及び当該年度2年連続受診者数）
 当該年度の対象者数



※精検結果が未把握の者は含めません。



Ⅲ. 平成19年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成19年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開催日時	場	所	出席者	内	容
胃がん	がん検診従事者講習会及び症例研究会	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成20年2月2日(土) 午後4時～ 午後6時10分	米子市 西部医師会館	米子市 西部医師会館	153名	演題：「胃がん検診の有効性評価について」 講師：京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学 教授 渡邊能行先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 池淵雄一郎先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 藤瀬 幸先生 西部—1例：山陰労災病院 謝花典子先生	
子宮がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	平成20年2月3日(日) 午後2時30分～ 午後4時	琴浦町浦安 まなびタウンと うはく	琴浦町浦安 まなびタウンと うはく	54名	演題：「若年者子宮頸部癌の動向とその対策」 講師：三原赤十字病院産婦人科副部長 高橋正国先生 症例提示 4例	
肺がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成20年2月23日(土) 午後4時～ 午後6時10分	米子市 西部医師会館	米子市 西部医師会館	60名	演題：「肺がん検診の現状と課題」 講師：帝京大学医学部内科学講座教授 江口研二先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 前田啓之先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 吹野俊介先生 西部—3例：鳥取県立大医 胸部外科 三和 健先生	
乳がん	乳がん検診従事者講習会及び第15回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	乳がん検診従事者講習会及び第15回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	平成19年8月4日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	鳥取市 鳥取県健康会館	84名	演題：「鳥取県の乳がん検診の現状と問題点」 講師：鳥取県成人病検診管理指導協議会乳がん部会長 石黒清介先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 山口由美先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 内田尚孝先生 西部—1例：鳥取大医乳脈・内分泌外科 須田多香子先生	
大腸がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成19年8月18日(土) 午後4時～ 午後5時30分	米子市 西部医師会館	米子市 西部医師会館	99名	演題：「大腸ポリープの取扱いについて」 講師：山陰労災病院内科副部長 神戸貴雅先生 症例検討 東部—1例：鳥取生協病院 竹内 勤先生 中部—1例：野島病院 牧野正人先生	
肝臓がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成20年3月1日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	鳥取市 鳥取県健康会館	110名	演題「肝臓治療の実際及びINIF投与の工夫～肝臓死をより少なくするための～」 講師：鳥取赤十字病院内科副部長 満田朱理先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 清水辰宣先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 藤瀬 幸先生 西部—2例：山陰労災病院 西向栄治先生	

1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成20年2月2日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 池 淵 雄一郎

52歳、女性

主 訴：特記事項なし

検診歴：平成14年 異常なし

平成16年 異常なし

平成18年 胃角部大弯レリーフ異常

経 過：平成18年12月当院の生活習慣病一般健診にて胃角大弯レリーフ異常を指摘される。平成19年1月初旬に当院外来受診となる。当院での上部内視鏡検査にて胃角部大弯に径約30mm、体下部大弯に径約50mmの凹凸不整な陥凹面をもち辺縁はわずかに隆起するⅡc病変を認めた。両病変の間は正常粘膜に覆われていた。体下部大弯の病変は送気を行うも、粘膜下からの挙上変形は伸展されず、深部浸潤が疑われた。生検にてGroup V (signet ring cell carcinoma) であり、内視鏡所見上も深部浸潤が疑われ手術の方針となった。平成19年1月末に幽門側胃切除術を施行した。体下部の病変より口側に5cmのマーゼンを取り切除され完全切除と考えられていたが、病理の結果では口側断端が陽性であった。口側断端の粘膜面は正常構造を保持していたが、粘膜下層より深部で癌の側方浸潤を認めた。2月に追加切除術(胃全摘術)を施行となった。病理結果はadenocarcinoma sig., t3 (se), ly₀, v₀, n₀, pm(-), dm(-)であり、胃全摘術において完全切除となっている。最終診断はstageⅢA (T₃, N₀, M₀, H₀, P₀) であった。

検 討：本症例は所謂Linitis plastica型胃癌と考える。平成16年の検診フィルムでは病変の指摘は困難であった。平成17年に受診しておらず、毎年の受診が望まれる。また平成16年の検診フィルムにて大弯の襞肥厚を認め、このような症例では未分化型胃癌の可能性も高く内視鏡による精検が早期発見のためには望ましいと思われる。

また病変の側方伸展の術前評価に関しては、本症例のように陥凹面をもち伸展不良を伴う低分化または未分化胃癌の場合は粘膜下の側方伸展について十分に検討する必要があると考える。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 藤 瀬 幸

73歳 男性

検診歴：平成6年 異常なし

平成19年11月 体部大弯レリーフ異常

経 過：平成19年11月の検診で異常を指摘され当院受診。上部消化管内視鏡検査にて胃角部大弯にひだの集中・先細りを伴うⅡc型病変を認め、生検にてsignet ring cell carcinomaであった。その後、精査にてcStageⅠAと診断し、手術の方針となった。

手術結果：平成19年12月26日幽門側胃切除術を施行された。病変の大きさは40×20mm、病理診断はSignet ring cell carcinoma pT₁ (m), pN₀, P₀H₀M₀, fStageⅠAであった。

検 討：検診時のフィルムを見直すと、体部大弯後壁よりのひだは肥厚しておりその肛門側の胃角部大彎にはひだの集中・途絶を伴ったⅡc型病変が同定できたため存在診断は十分に可能であった症例と考えられた。病変と考えられる部位に遭遇しても、常に全体を観察するよう心がけることが必要と考えられる症例であった。

〔西部症例〕

山陰労災病院 謝 花 典 子

67歳、男性

検診歴：平成17年度 車検診 異常なし

平成18年度 施設検診人間ドック（胃X線）にて、胃前庭部に不整な潰瘍性病変が指摘され、胃癌が疑われた。

経 過：平成18年9月、特に症状なく、施設検診人間ドック（胃X線等）を受け、胃病変と肝臓の腫瘍性病変を指摘された。当院で上部消化管内視鏡検査などの精査をし、10月、胃幽門側切除術を施行した。

切除標本（病理所見）：胃前庭部前壁 2型，53×42mm，T2（SS），por1，INFβ，ly₃，v₁，N₃，H₁，P₁，StageⅣ

検 討：平成17年集検フィルムでは、前壁二重造影像で、病変がわかって見直すと、前庭部にわずかながらニッシェ様所見が示現されており、異常所見の指摘は可能であったかと思われる。前壁の病変である為、前壁二重造影像の撮影時の体位工夫と、できれば圧迫撮影（圧迫ができる検診車でなければならぬが）の追加がなされていれば、もっと病変が的確に描出され、指摘をより可能にし得たのではないかと考える。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成20年2月3日(日) 午後2時30分～午後4時

場 所 まなびタウンとうはく

1. 症例検討

鳥取大学医学部産科婦人科講師 板持弘明先生の進行により、車検診1例、施設検診3例について症例検討が行われた。

症例1. 49歳、車検診。毎年検診を受けている。微小浸潤がんと診断されたが、前年の細胞診クラスⅡはクラスⅢとし要精検にすべきと意見が一致した。

症例2. 52歳、施設検診。腺がんと診断。前回検診(2年3ヵ月前)で細胞診はクラスⅡ。今回は細胞診クラスⅤ。前回細胞診見直しではクラスⅤとすべきと意見が一致した。

症例3. 48歳、施設検診。扁平上皮がんと診断。7ヶ月前の細胞診クラスⅢb、円錐切除し組織診断は高度異型上皮だった。今回は細胞診クラスⅤ。前回の組織診見直しで浸潤がんが見つかった。

症例4. 61歳、施設検診。子宮内膜増殖症と診断。前回受診2年前、細胞診クラスⅡ。今回、頸部細胞診クラスⅡ、体部細胞診一陽性。超音波で子宮内膜14mm。最終的には内膜搔爬組織診で診断される。

問題点と今後の課題

A: 1、2例は細胞診の見落としであり、スクリーナーの精度管理向上にむけて更なる研鑽が求められる。

B: 病理診断は治療方針を決定するものであり、見落としがあってはならないが、臨床医に責任があるのかは慎重に議論されなければならないだろう。

平成19年度子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TMN分類	
症例1	49歳	大山町	H14.07.25	鳥取県保健事業団	class II					
			H15.10.15	鳥取県保健事業団	class II					
			H16.10.08	鳥取県保健事業団	class II					
			H17.10.25	鳥取県保健事業団	class II					
			H18.10.18	鳥取県保健事業団	microinvasive Squamous cell carcinoma					
症例2	52歳	鳥取市	H16.10.28	鳥取県保健事業団	class II	鳥取県立中央病院	Adenocarcinoma (内頸部型)	I b2期	pT _{1b} pNR ₀ pM ₀	鳥取県立中央病院
		H19.01.30	鳥取赤十字病院	Adenocarcinoma						
症例3	48歳	米子市	H17.10.14	博愛病院	class III b	博愛病院	Squamous cell carcinoma	I b1期	pT _{1b} N ₀ M ₀	鳥取大学 医学部附 属病院
			H18.06.08	博愛病院	Squamous cell carcinoma (keratinizing)					
症例4	61歳	米子市	H18.12.27	米子医療センター	陽性	博愛病院	子宮内膜増殖症			

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成20年2月23日(土) 午後4時～午後6時10分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

[東部症例]

提出者：鳥取県立中央病院 前田 啓之

症 例：54歳、女性

主 訴：右胸部異常陰影

現病歴：2001年から毎年胸部X線による検診を受けC判定であった。2006年7月咽頭痛・鼻汁などの感冒症状にて近医耳鼻咽喉科受診、軽快しないため同年8月当院内科受診し上記主訴を指摘された。

既往歴：中学生時 肺結核・胸膜炎で1年間内服加療

生活歴：喫煙歴ないが夫が喫煙者

臨床経過：検診X線検査所見は比較読影上変化がなかった。当院初診時にCTを施行し陳旧性炎症癍痕を疑い嚴重経過観察中であった。2007年9月に陰影の増大傾向を認めたため、経気管支鏡針生検を施行し肺癌の診断となった。2007年11月右肺上葉切除術縦隔リンパ節郭清を施行した。胸腔内に広範囲な癒着を認めた。

術後診断：右S1a Adenocarcinoma with mixed subtypes 26×14mm pT₁N₀M₀ stage IA癍痕周囲に肺胞上皮癌と乳頭型腺癌が認められた。

まとめ：陳旧性炎症癍痕を疑いC判定で経過観察中に発生したと思われる肺癌症例である。結核の既往があり、比較読影で変化が乏しい場合に新たな肺癌の発生を見逃す可能性がある。同様の症例においては積極的なCT施行、嚴重な経過観察や生検も重要であると考えられた。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 吹野 俊介

症 例：59歳、男性

主 訴：胸部異常陰影

生活歴：タバコ指数 60本×40年

家族歴：既往歴に特記すべきことなし。

現病歴：毎年胸部X線写真の検診を受けていたが、異常の指摘はなかった。

平成19年10月の検診で胸部異常陰影を指摘され、当院受診となった。

検査所見でCEAが7.8と高値。FVC：3.02L (83.3%)、FEV1.0：1.60L (53%)と閉塞性換気障害を示していた。

胸部X線写真では平成16年から18年までは特に異常所見は認められなかった。19年では右中葉無気肺と左上葉の部分的無気肺がはっきりと認められた。気管支鏡検査で右中葉支口に腫瘍が露出しており、擦過細胞診で扁平上皮癌の診断、また左上葉支B1+2にも腫瘍を認め、これも扁平上皮癌の診断となった。同時多発肺癌である。

治療は2期的手術で根治をめざした。まず右中葉切除術そして左上葉切除術を予定した。

しかし、右中葉切除は癌の進展が下葉支まで及んでおり、右中下葉切除術となった。肺機能の低下は著明で次の左上葉切除が可能かどうか現在検討中である。

検 討：当院での肺門部肺癌手術は39例あり、5年生存率は70.3%、末梢部肺癌手術例の5生率は

53.7% (498例) で肺門部肺癌は切除できれば予後が比較的良好である。この肺門部肺癌手術例39例のうち検診喀痰細胞診で発見された例は8例で、他の31例は前述の症例報告のごとく、胸部X線写真や有症状で発見された例である。検診喀痰細胞診のみでの発見例の5生率は75%、他の発見動機例は69.4%で少しの差のように感じられるが、実は検診喀痰細胞診発見例はそのほとんどが手術可能であるが、逆に他の発見動機例は手術可能例が大変に減少する。

まとめ：予後が期待できる肺門部肺癌の早期発見のために、検診での高危険群に対する喀痰細胞診をさらに啓発することが重要であると考えられる。

[西部症例]

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 三 和 健

症例1：77歳、男性

主 訴：胸部異常影

現病歴：以前検診異常影を指摘され精査するが異常はなかった。平成16年の検診でE1判定であったが精査を受けず。平成17年の検診でB判定。平成18年5月近医で施行した胸部X線・CTにて異常陰影を認め紹介となった。

臨床経過：入院時の胸部X線では左中肺野外側に約3cm大の不整形の腫瘤影を認めた。胸部CTでは左S3に胸膜陥入を伴う充実性腫瘤を認めた。胸腔鏡下左肺上葉切除術＋リンパ節郭清術を施行した。腫瘍径37×37×24mmの中分化扁平上皮癌、pT₂N₀M₀、IBと診断された。

症例2：52歳、女性

主 訴：持続する咳、痰

現病歴：これまで検診を受診するが異常は指摘されなかった。平成18年4月から咳、痰が出現、持続するため当院を受診、精査の結果肺癌が疑われ紹介となった。

生活歴：喫煙歴なし

臨床経過：胸部X線では左中肺野に淡い小結節影を認め、平成17年度の間接写真でも確認できた。胸部CTで左S8胸膜直下に胸膜陥入、spiculaを伴う腫瘤を認めた。胸腔鏡下左肺下葉切除術＋リンパ節郭清術を施行した。腫瘍径17×10×14mmの中分化腺癌、pT₁N₀M₀、IAと診断された。

症例3：74歳、男性

主 訴：胸部異常影

現病歴：毎年町の検診を受けていたが、異常を指摘されたことはなかった。平成19年3月咳にて近医受診、胸部異常影を指摘され紹介となった。

生活歴：喫煙20本/日×50年

臨床経過：胸部X線では左上肺野に淡い腫瘤影を認めた。平成18年度の間接写真では、異常影の指摘は困難であった。胸部CTで左S6の胸膜直下に約10mm大の周囲にGGOを伴う腫瘤陰影を認めた。胸腔鏡下左肺部分切除術を施行、迅速病理で腺癌の診断であったため左肺下葉切除術＋リンパ節郭清術を施行した。腫瘍径腫瘍径15×15×10mmの中分化腺癌、pT₁N₀M₀、IAと診断された。

検 討：当科で手術施行となった検診間発見癌の3症例を提示した。不整な塊状影で精査を受けなかった症例、淡い小結節影で見落としと考えられた症例、淡い小結節影で異常を指摘する

ことが困難であった症例であった。特徴は①検診の見落とし、②胸部X線で写らないスリガラス陰影、③悪性度の高い急速発育の腫瘍、④要精検となったものの精査されなかった場合であり、これらに留意する必要があると考えられた。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成19年8月4日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由美

乳癌検診で発見された両側同時性乳癌の1例

45歳、女性。

平成16年に乳癌検診を受け、その時より左乳房の腫瘍を自覚していた。平成18年の乳癌検診で左乳房の腫瘍とMMGでの腫瘍影を指摘され、当院受診となった。触診では右EDに1.5×1.3cm、B=D領域に1.5cm大、左はEA領域に3cmの腫瘍を認めた。腋窩リンパ節は両側共に触知できなかった。MMGでは右は構築の乱れ、左は腫瘍影を指摘され、カテゴリー3/4であった。超音波では右側に3ヶ所に低エコー性腫瘍、左側も3ヶ所の低エコー性腫瘍を認めた。細胞診の結果、左EAの腫瘍は乳癌と診断され、まず左乳房切除術（Bt+Ax）を行い、その手術時に右の腫瘍の生検を行い、右側も乳癌と診断し、後日、右は乳房温存術（Bp+Ax）を施行した。右乳房内の多発腫瘍はすべて摘出し、1個を除いて他は乳腺症による腫瘍と診断された。左は乳頭腺管癌でレベルIにリンパ節転移を1個認め、ER(+）、PgR(+）、HER2(-)であった。右は硬癌でリンパ節転移は認めず、ER(+）、PgR(+）、HER2(-)であった。術後は化学療法を施行し、現在も再発の兆候は認められていない。今回、検診で腫瘍径が大きい左側のみ要精査となっており、実際は両側乳癌症例であった。所見の目立たない対側の所見も十分に観察する必要があるものと思われる。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 内田 尚孝

触診が有効であった乳癌症例

触診が有効であった乳癌症例を経験した。症例は、64歳女性。平成17年の検診では、視触診及びマンモグラフィで異常を指摘されなかった。平成18年は検診をうけなかった。平成19年6月の検診で左乳腺に腫瘍を指摘され、翌日当院を受診された。受診時、左A領域に2cm大、円形、辺縁境界明瞭、表面整、弾性硬、可動性良好の腫瘍を触知した。マンモグラフィでは、不均一高濃度の乳腺実質内においてCat. 2の石灰化を認めた。Cat. 3以上を示唆する腫瘍陰影は認めなかった。超音波検査所見では、腫瘍像形成性病変で嚢胞性パターンを示しており、境界部はLateral shadowを認め、内部はほぼ均一で点状高エコーは認めず、辺縁はほぼ整であった。穿刺吸引細胞診を行った結果、Class V, solid tubular adenocarcinomaの診断となった。左乳癌の診断で乳房円状部分切除術+腋窩リンパ節郭清を実施した。肉眼所見では、腫瘍は1.2cm×1cm×1cmであった。マンモグラフィにて良性の石灰化があった部位に乳癌が発生していたのかどうか標本及びそのマンモグラフィを撮影し検討した結果、石灰化の位置は腫瘍が同定された位置と異なっていた。組織所見では、石灰化部位及び癌組織周囲には腫瘍細胞は認めず正常組織であった。以上の結果より、最終診断はInvasive ductal adenocarcinoma (solid tubular type), ER (3+) PR (2+) HER2(-), T₁N₀M₀ Stage Iであった。1999年Barton MBらによってJAMAに発表されたRandomized trialの論文では、触診の有効性に関し感度54.1%、特異度94.0%と報告されている。一方、MMGの感度は75%程度で、25%の乳癌患者は過去1—2年前のマンモグラフィで正常所見を示すとされている。本症例より、触診は他の検査法に比べ感度は下がるものの乳癌検診の基本であることを再認識した。また、マンモグラフィを撮影する際、良性所見にまどわされない読影が必要であるが、マンモグラフィに反映されない乳癌もあることを念頭におく必要

があると考えられた。

〔西部症例〕 提出者：鳥取大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科 須田 多香子

検診発見乳癌ではないが、細胞診で乳癌疑い、針生検で乳管内乳頭腫と診断され、永久標本で浸潤癌と判明した症例を提示した。

症 例：41歳、女性。閉経前。

主 訴：右乳房腫瘍。

病 歴：平成19年5月 右乳房腫瘍自覚し近医受診。細胞診で乳癌疑いと診断され、当科紹介。初診時、右C領域に2.5cm大の腫瘍を触知、乳頭分泌なし。

検査所見：マンモグラフィでC3の腫瘍、超音波検査で2.4cm大の嚢胞内隆起性病変あり。針生検を行い、 α 平滑筋アクチン染色にて乳管上皮と筋上皮との二相性が確認され、核異型も軽度であることから、乳管内乳頭腫の診断。術前の造影CTで、右C領域の主病変のほか、D領域全体にまだら状の濃染領域有り。

手 術：センチネルリンパ節生検は施行せず、右C領域の腫瘍を乳管腺葉区域切除。術中迅速病理診で悪性所見なし。右D領域のCT濃染領域についても、乳頭腫の多発（乳頭腫症）と考え、再発予防のため乳腺部分切除した。

病理（永久標本）：invasive ductal carcinoma, papillotubular ca. > solid-tubular ca. g. ly₀. v₀. 核異型度grade 1, 核分裂像grade 2. ER 95%, PR 45%, HER2（1+）.

経 過：術後、悪性と判明したため、追加手術（乳腺追加切除+センチネルリンパ節生検）を勧めらるも、患者は消極的であったため、放射線療法とホルモン療法を継続中、現在まで再発なく経過している。

考 察：乳管内乳頭腫は、血性分泌を伴う良性疾患として有名で、触知は困難なことが多いが、本症例では、血性分泌を伴わず、硬い腫瘍として触知した。乳管内乳頭腫は、細胞診、針生検、術中迅速のいずれによっても良・悪性の確定は行うべきではないとされ、鑑別の難しい疾患であることに加え、しばしば、乳管内乳頭腫に異型細胞集団や癌を合併する。そのため、病変部を外科的に摘出し、永久標本での病理診断が必須である。また、悪性でなくとも、乳頭腫はしばしば多発し、局所に再発する場合がある。術前に、悪性の確定がなされていない場合は、切除範囲の決定に苦慮するが、疾患の特徴を患者に十分説明した上で、取り扱う必要がある。

5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成19年8月18日(土) 午後4時～午後5時30分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取生協病院 竹内 勤

87歳、男性

現病歴：高血圧、下肢閉塞性動脈硬化症にて近医通院中であつた。平成18年1月の大腸がん検診を受け、便潜血陽性(++)となつたため、当院紹介され、同1月26日大腸内視鏡検査が施行された。その結果、直腸(Rs)の2型進行癌と、上行結腸の多発ポリープ、および上行結腸、S状結腸の有茎性粘膜下腫瘍が発見された。高齢であつたが手術療法が選択された。

手術所見：低位前方切除術および術中colonoscopyにてポリープの位置を確認したうえ上行結腸切開下、外科的ポリペクトミーが行われた。主病巣の大きさは、35×35mm、組織型well differ. Adenocarcinoma、深達度mp、ly₀、v₀、n(-)、stage Iであつた。ポリープは8個あり、うち6個は腺腫(moderate atypia)で、残りの2個は粘膜下腫瘍で組織学的にlipomaであつた。

検 討：本例は直腸の進行癌と、上行結腸、S状結腸の多発腺腫+粘膜下腫瘍(脂肪腫)であり、術前検査ではそれぞれ特徴があり、明確に診断可能であつた。

結腸・直腸には病変が多発することがしばしばあり、注意を要する。特に狭窄などのため、口側大腸を検索できない場合には多発癌などの可能性を念頭に置くことが大切であると思われた。

〔中部症例〕

提出者：野島病院 牧野 正人

94歳、男性

現病歴：平成16年5月上行結腸癌にて結腸右半切除(well、ss、ly₁、v₁、n(-)、stage II、D3、curA)を受けている。平成18年11月定期受診時CEA4.3ng/ml、平成19年7月全身倦怠を主訴として紹介医に久しぶりに受診した。Hb7.9g/dl、CEA9.1ng/mlと上昇しており精査目的に平成19年7月当科紹介となつた。

既往歴：20歳：肋膜炎 30歳：緑内障、白内障で失明

経過と検討：入院後大腸内視鏡にてS状結腸進行癌と判明。平成19年7月腹腔鏡補助下手術施行。

術後、前回注腸造影を見返すと病変を示唆する所見あり。前回はイレウス気味、超高齢者であつた点を斟酌しても、やはり大腸内視鏡を施行していればと反省させられる症例であつた。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成20年3月1日(土) 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 清水 辰 宣

症 例：39歳、女性。

主 訴：B型慢性肝炎のフォロー中。

現病歴：B型肝炎無症候性キャリアとして年2回当科外来にて定期受診されていた。平成19年9月の定期画像検査にて肝S5に2.5cm大のSOLを認め精査加療のため入院となった。

現 症：胸腹部特記事項なし

検査所見：血液一般検査：異常ない。生化学検査：肝機能正常。AFP, PIVKA-II正常。

HBs抗原(+)、HBe抗原(-)、HBe抗体(+)。HBV-TMA>3.7LGE/ml。

入院後経過：血管造影にて、肝S5にCTAで造影されCTAPにて欠損される2.5cm大のSOLを認め、同部は腹腔動脈造影では腫瘍濃染像を認めた。上記にて肝細胞癌と診断し、治療については単発・肝予備能良好にて外科的切除の方針となり肝区域切除が施行された。切除標本では、背景肝組織はほぼ正常肝組織で、腫瘍部は大きさ2.1cm大、白色調で周囲との境界は明瞭で結節を伴う類円形の腫瘍を認めた。組織学的には、腫瘍細胞は小型から中型の細胞で索状～充実性増殖を呈し部分的には小腺管状の構造の介在を認め、間質には繊維性結合組織の増生を認めた。免疫染色では、胆管細胞的性質であるCK7、CK19、CEA、CA19-9が陽性で、肝細胞的性質であるHepPar1、AFPも陽性であった。両者の性質を併せもち免疫組織学的に、中間型肝癌(混合型肝癌の一亜型)と診断された。術後経過も良好で外来経過観察しているが現在まで再発は認めていない。

考 察：近年、ヒトにおいても肝細胞と胆管細胞の両方向に分化しうる肝幹細胞の研究が進展するとともに、免疫染色で肝幹細胞を起源としたと考えられる肝癌の存在が示唆されるようになった。本症例は、肝細胞癌と胆管細胞癌の両者の形質を有する免疫染色結果が得られた、中間型肝癌と診断された。B型慢性肝炎無症候性キャリアに発症した特殊肝癌であった。

結 語：ウイルス性肝硬変を背景にもつことが多いとされる中間型肝癌においても正常の肝臓から発癌を認めており、やはりB型肝炎無症候性キャリアにおいて画像検査も含めた定期的な検査は重要と考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 藤 瀬 幸

症 例：45歳、男性

現病歴：平成19年9月発熱、咳、痰が出現し近医受診。胸部Xpで肺炎を疑われ当科紹介受診となった。

既往歴：30歳代 B型慢性肝炎(他院)

家族歴：弟 B型慢性肝炎 HCCにて手術歴あり

生活歴：飲酒；ビール500ml/日、喫煙；10本/日

検査所見：WBC9770/ μ l, Hb13.5g/dl, Plt19.5万/ μ l T-Bil0.91mg/dl, AST31IU/L, ALT21IU/L, LDH176IU/ γ -GTP71IU/l, TP7.7g/dl, alb4.16g/dl, ICG2.0%, PT98%, AFP73236ng/ml

PIVKA II 1739mAU/ml, CEA1.1ng/ml, HBs抗原陰性、HBs抗体陽性、HBc抗体低力価陽性、HCV抗体陰性、Child-Pugh score A₅

経過：DynamicCTで肝S1に早期相で濃染、平衡相でwash outされる7cm大の腫瘤を認めた。MRIでもS1に7×7×5cmの腫瘤を認めた。同部は拡散強調像で高信号を呈し、リゾビストの取り込みはなく、肝細胞癌と診断したが、肝動脈造影・CTA/CTAP、肝両葉に多発する肝内転移を認めたため、TACEを2回施行し、AFP500ng/mlまで減少・腫瘍径も縮小した。その後、腹部MRI施行しEOB・プリモビスト造影で血流を確認すると、早期相で残存したS1のHCCが淡く造影され、また肝細胞造影相では結節状のdefectが散見されこれらは拡散強調像で高信号を示しており肝内転移巣にもHCCの残存が疑われたため、今後も追加のTACEを予定している。

考察：今回の症例は、HBs抗原陰性で検診では要精査にはならないが、慢性肝炎の既往があり定期的にfollow upされるべきであったと考えられた。当院では現在、肝腫瘍精査にEOB・プリモビストを用いた造影MRIを施行している。EOB・プリモビストは1回の投与で、肝腫瘍の血流評価と肝細胞の機能評価が可能であり今後もさらに優れた診断能が期待されると考えられた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

症例1：73歳、女性

主 訴：肝腫瘍の加療・黄疸

既往歴：糖尿病、狭心症、高血圧で 他院で加療中。輸血歴（-）

生活歴：飲酒（-）

現病歴：平成16年4月20日頃より全身倦怠感あり。4月27日より、胃もたれ、嘔気、食欲不振が出現し、5月13日軽快しないため他院を受診し、肝左葉に8cm大の肝腫瘍を指摘され、5月17日当院外科に入院となる。

現 症：意識清明、血圧140/50mmHg、脈拍78回/分 黄疸（+）貧血（-）

腹 部：腹水なし。

入院時検査：末梢血液：WBC7700/ μ l、RBC475万/ μ l、Hb13.4g/dl、Plt23.9x10⁴/dl

凝固：PT 108% 血清：CRP 0.1mg/dl、HBsAg陰性、HCVAb陰性、AFP 29462ng/ml、PIVKA-II 79900mAU/ml、CA19-9 3025U/ml、CEA3.9ng/ml

生化学：T. Bil 4.3mg/dl、D. Bil 3.3mg/dl、Alb 3.0mg/dl、GOT 183IU/l、GPT 184IU/l、rGTP 832U/l、LDH 379IU/l、ALP 824IU/l、ZTT 5.7 kunnkel、TTT 1.7 kunnkel、ICG -R15 12.8%、-K 0.126

入院後検査及び経過：経上腸間膜動脈的門脈造影（1病日）では、門脈左枝は造影されなかった（VP 3）。腹腔動脈造影では、肝左葉S4に淡い造影効果を示す6cm大腫瘍を認め、門脈相で門脈左枝の腫瘍塞栓に一致するThread and streaks signを認めた。

CTAPで門脈左枝の完全閉塞を認め、右葉にSOLは認めなかった。CTAで、S4肝腫瘍および左肝内胆管末梢の拡張、右後区域も軽度胆管拡張を認めた。

MRCP（2病日）では、上部総胆管から3管合流部の部分的な欠損途絶を認めた。

ERCP（3病日）を行ったところ、Vater乳頭からの出血（Hemobilia）を認め、胆管造影は上部総胆管で完全途絶を認めた。しかし、ガイドワイヤーを挿入し、右肝内胆管末梢側が造影可能であったため、EST（内視鏡的乳頭切開術）を行った。その後バルーンを

用いて血栓（腫瘍塞栓疑）除去を行った。術後の造影で左肝管起始部に腫瘍浸潤と思われる欠損像を認めた。以上より、肝左葉HCCおよび門脈左枝腫瘍塞栓（VP3）、胆管内出血（腫瘍塞栓疑）と診断した。術後TBilが2.0mg/dlまで軽快したので、EST 5日後に肝拡大大左葉切除術、右肝管空腸吻合術、肝動脈リザーバー挿管術が行われた。組織像は、Trabecular type>Pseudoglandular typeであった。

症例 2：66歳、男性

主 訴：黄 疸

既往歴：13年前、他院で、肝腫瘍のため、肝部分切除術を受けた。輸血歴（-）

生活歴：飲酒（+）ビール 1 L/日、タバコ 20本/日×36年

現病歴：平成18年8月中旬より上腹部痛出現。翌日他院受診し閉塞性黄疸と診断され入院となる。

腹部CTで、肝左葉SOLおよび肝内胆管拡張像、また総胆管拡張像とその内部にhigh density massの充満を認めた。AFP 5210ng/mlと上昇を認め、肝腫瘍を疑い、総胆管結石による閉塞性黄疸の診断で、8月24日紹介入院となった。

現 症：意識清明、血圧129/71mmHg、脈拍85回/分 黄疸（+）貧血（-）

腹 部：肝2横指触知、腹水なし。

入院時検査：末梢血液WBC 7800/ μ l、RBC 475×10^4 / μ l、Hb 12.8g/dl、Plt 19.8×10^4 /dl

凝固：PT 70%血清：CRP 6.02mg/dl、HBsAg陰性、HCVAb陰性、AFP 3887ng/ml、PIVKA-II 2470 mAU/ml、CA19-9 2540U/ml、CEA 2.9ng/ml 生化学：T. Bil 11.0mg/dl、D. Bil 8.6mg/dl、Alb 3.0mg/dl、GOT 144IU/l、GPT 55IU/l、rGTP 1083IU/l、LDH 233IU/l、ALP 694IU/l、ZTT 5.5 kunnkel、TTT 1.6 kunnkel、ICG -R 1522.4%、-K 0.088

入院時画像検査及び経過：他院の腹部CTでは、肝左葉の肝内胆管拡張と総胆管内high density massを認めた。

入院時腹部造影CTでは、肝多発性腫瘍像および門脈右枝の血流欠損像を認めたが、総胆管内部はlow densityに変化していた。入院時MRCPでは、3管合流部から左肝内胆管起始部、下部総胆管に欠損像を認めた。左胆管末梢は拡張していた。ERCPで左肝管内陰影欠損と下部総胆管内の透亮像を認めたためESTを施行したところ、湧出性出血を認めた。再出血に備えENBDを挿入した。4日の造影で総胆管の造影は良好であった。その後TBilは、1.5mg/dlまで低下し、腹部血管造影を行った。CTAP、CTAで肝両葉に濃染する多発性腫瘍像を認め、門脈右枝に腫瘍塞栓を認めた（VP3）。A4+A1を中心にTACE（アイエーコール50mg、lipiodol 6ml、Gelpart）を行った。その後、肝動注リザーバー留置を行い、1年4ヶ月の生存を得ることができた。

考 察：一般に黄疸で発症したHCC例は、治療困難な場合が多いことが知られている。今回胆管内血腫による閉塞性黄疸の2症例で内視鏡的加療による減黄を得られることを経験し、更なる追加治療が可能であった。また、MRCPは非侵襲的で、加えて胆道内病変の早期診断、治療方針決定に示唆を与え非常に有用であった。症例1は、総胆管内の血腫あるいは腫瘍塞栓のバルーン除去による減黄により、肝切除が可能となった。症例2は、内視鏡的乳頭切開術（EST）による減黄のみでTACE、リザーバー動注療法が可能となった。黄疸で発見された治療困難なHCC症例の中に内視鏡的加療が有用な減黄可能例が存在し、治療法の選択肢の一つに考慮されるべきであると考えた。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	15	25	560	6	14	141	24	4,088	500	45	4,127	1,201
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	4	19	60	11	42	111	15	62	144	30	123	315
乳 がん	1	8	24	1	3	21	2	12	77	4	23	122
大腸がん	9	10	369	3	5	80	22	134	455	34	149	904
肝臓がん	3	6	116	4	11	110	4	13	58	11	30	284
合 計	32回			25回			67回			124回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、がん検診の有効性向上のため、精度管理上、各がん検診精密検査医療機関登録の登録基準について、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が次のとおり改正され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がございましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H18. 4. 1～H21. 3. 31	H20年度中	H18. 4. 1～H21. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H18. 4. 1～H21. 3. 31	H20年度中	H18. 4. 1～H21. 3. 31
肺がん検診精密検査	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
乳がん検診精密検査	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
大腸がん検診精密検査 (注腸X線)	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	H20. 4. 1～H23. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H19. 4. 1～H22. 3. 31	H21年度中	H19. 4. 1～H22. 3. 31
肺がん一次検診	H20. 4. 1～H23. 3. 31	H22年度中	
乳がん一次検診	H18. 4. 1～H21. 3. 31	H20年度中	H18. 4. 1～H21. 3. 31

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成20年度より適用）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東・中・西部 各1	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できるか又はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録基準

- 1 次の基準にあうエックス線撮影装置で注腸エックス線検査が実施できること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 2 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 3 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 8 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV—RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は、電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) プロブは、128素子以上の高密度多素子プロブであること。
 - (3) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (4) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (5) 観察用モニターは、9インチ以上であること。

*上記基準に合致しなくても本委員会が承認した装置であればよい。（承認装置は別紙を参照）
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点

（高根県開催も対象）

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
 - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
 - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
 - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
 - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、成人病検診管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね、会長の言葉にもあるように一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第14報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 宮 崎 博 実